●法律第十三號　三十四年三月三十日

砂糖消費税法

第一條　内地消費ノ目的ヲ以テ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス

第二條　製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條　消費税ノ割合左ノ如シ（四十一年法律第一號ヲ以テ改正シ同四十三年三月三十一日法律第三十三號ヲ以テ改正四月一日施行）

▲百五

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖（四十四年三月三十一日法律第五十七號ヲ以テ改正四月一日ヨリ施行）

甲　樽入黒　百斤ニ付金二圓

乙　樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク　百斤ニ付金二圓五十錢

丙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付金三圓

第二種　砂糖色相和蘭標本第十五號未滿ノ砂糖　百斤ニ付金五圓

第三種　砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖　百斤ニ付金七圓

第四種　砂糖色相和蘭標本第廿一號未滿ノ砂糖　百斤ニ付金八圓

第五種　砂糖色相和蘭標本第廿一號以上ノ砂糖　百斤ニ付金九圓

第六種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ　百斤ニ付金十圓

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超ヘサルモノ　百斤ニ付金三圓

乙　其ノ他ノモノ　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付金九圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種　其ノ他ノ糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超ヘサルモノ　百斤ニ付金二圓

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付金三圓

三　糖水　百斤ニ付金八圓

第四條　前條ノ消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徴收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以內消費税ノ徴收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ニ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ

得

前項ニ據リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ税金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　內地消費ノ目的ニ非スシテ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラルヽ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ消費税ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ依リ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月內ニ外國ニ輸出セラレタルノ證明ナキモノハ內地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費税ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費税及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第六條　消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費税納付前又ハ擔保提

供前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ得スシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ得テ消費税納付前又ハ擔保提供前砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス（四十三年法律第三十三號ヲ以テ本項追加）

第八條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條ノ二　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ同一ノ場所ニ於テ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ販賣業又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造場トヲ區劃シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス（四十三年法律第三十三號ヲ以テ追加）

第九條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ（同上ヲ以テ改正）

第十條　收税官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得（同上）

第十一條ノ一　政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラルル砂糖及糖蜜ニハ消費税ヲ課セス（本條ハ三十五年三月法律第二十一號ヲ以テ改正シ三十八年二月法律第二十六號ヲ以テ第三項但書追加）

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ税金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第二項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以内ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費税ヲ徴收ス但シ災害ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條第二項及第三項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十一條ノ二　第六條及第七條ノ規定ハ前條ノ砂糖又ハ糖蜜ノ引取及引渡ニ之ヲ適用セス（同上）

第十一條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖ヲ製造シタルモノト看做ス（四十三年法律第三十三號ヲ以テ追加）

一　砂糖ニ加工ヲ爲シテ其ノ種別ヲ上昇シタルトキ

二　砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其ノ數量ヲ增加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ水ノミヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　第八條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル製造場ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキ但シ糖蜜又ハ糖水ニ同種ノ糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　第六條又ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條　政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條ノ二　第八條ノ二ノ禁令ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トスル物品ヲ製造シタルトキハ第十二條ノ例ニ依ル（四十三年法律第三十三號ヲ以テ追加）

第十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（同上ヲ以テ改正）

第十五條　收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ依ル（同上）

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同

居者、雇人其ノ他ノ従業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス（四十三年法律第三十三號ヲ以テ改正）

附　則

第十八條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行ス

第十九條　本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以内ニ其旨ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ニ反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

附　則（三十五年三月法律第二十一號ヲ以テ追加）

本法施行前ニ於テ消費税ヲ課セラレタル砂糖及糖蜜ヲ本法施行後ニ於テ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ使用スルトキハ仍従前ノ規定ニ依ル

附　則（四十一年三月二十二日法律第一號改正ノ分）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別税法中砂糖消費税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（四十三年三月三十一日法律第三十三號改正ノ分）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

△八

●勅令第百六十九號　三十四年八月二十三日

砂糖消費税法施行規則

△三十五年三月勅令第五十一號追加改正

第一條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄税務署ニ申告スヘシ

第二條　製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　所轄税務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條　砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄税務署ニ申告スヘシ製造休止後更ニ著手セムトスルトキ亦同シ

第五條　第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄税務署ニ申告スヘシ

第六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄税務署ニ申告スヘシ

第七條　收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水其ノ原料品、製造用器具、器械又ハ帳簿書類ヲ檢査スヘシ

第八條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第九條　砂糖、糖蜜、糖水製ノ者砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキハ其ノ種類、量目及移出先ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條　製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ內地消費ノ目的ヲ以テスルモノト否トヲ區別シ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

△第十一條　砂糖消費稅法第四條第一項但書及同法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申

請ノ際砂糖又ハ糖蜜ノ種類、量目、引取ノ場所及時期、製造スヘキモノノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申出ツルコトヲ要ス

砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ收稅官吏ノ承認シタル砂糖又ハ糖蜜ニ付テハ第九條第二項ヲ準用ス

△第十二條　第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別及斤數ヲ査定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ徵收ノ手續ヲ爲シ其ノ擔保ノ提供ヲ要スルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ但シ豫メ納稅擔保ヲ提供シタルモノニ付テハ其ノ都度擔保額ノ指定ヲ要セス（四十三年二月八日勅令第八號ニテ但書追加公布ノ日ヨリ施行）

▲四十

第十三條　收稅官吏ハ金庫所在地外ニ因リ自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得

納稅義務者ハ金庫所在地外ニ在ル製造場ヨリ千斤未滿ノ第一種若ハ第二種砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ル場合ニ限リ收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅査定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ（三十七年四月勅令第百八號ヲ以テ改正同年同月十五日ヨリ施行）

東京府管下、鹿兒島縣管下ノ島嶼及沖繩縣ニ於テハ前項斤數ノ制限

ニ依ラサルコトヲ得（本項三十八年五月二十日勅令第百七號ヲ以テ追加ノ旨裁可同年同月二十二日公布）

第十四條　收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條　擔保物ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル（四十三年二月八日勅令第八號ヲ以テ改正二月九日ヨリ施行）

一　金錢

二　稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券

三　工場財團

第十五條ノ二　擔保物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル（同上）

第十五條ノ三　擔保トシテ金錢、有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

擔保トシテ工場財團ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ（同上）

但シ臺灣ニ於ケル工場財産ヲ提供シタルトキハ胎權設定ノ手續ヲ爲スヘシ（四十三年勅令第二百二十四號ニテ追加）

第十六條　稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル有價證券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ所轄稅務署ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

前二項ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス（同上）

△第十七條　砂糖、糖蜜、糖水製造者、稅關又ハ保稅倉庫砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費稅納付濟、擔保提供濟又ハ無保擔引取承認濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス

△第十八條ノ一　砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ所轄稅務署ニ提出スヘシ

一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

△第十八條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ擔保提供濟ナルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シ擔保ヲ提供シタル稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ申請スヘキ稅務署カ製造場所轄稅務署ト異ルトキハ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

△第十九條　砂糖消費稅法第四條第二項、第五條第二項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ

第二十條　前項ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所氏名又ハ名稱、公賣財產ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其他必要ノ事項ヲ記載スヘシ（第十五條ノ二ニ同シ）

第二十一條　公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

△第二十二條　砂糖消費稅法第四條第二項但書第五條第二項但書及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

△第二十三條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖、糖蜜ハ他ノ砂糖又ハ糖蜜ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

△第二十四條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖又ハ蜜糖ヲ使用セムトスルトキハ豫メ收稅官吏ニ申告シテ其ノ檢查ヲ受クヘシ

第二十五條　前條砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期間內ニ其ノ使用シタル原料ノ種類量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ

第二十六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者又ハ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ（四十三年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正）

一原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取リノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

二使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ使用ノ日

三製造シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目及其ノ製造ノ日

四他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十七條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ（四十三年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正）

一引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類量目、價額販賣ノ日及其ノ買受人住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條　收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者竝ニ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス（四十三年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正）

▲四十二

第二十九條　本令中稅務署ニ關スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖ニ關シテハ稅關之ヲ行フ（三十五年十一月勅令第二百五十二號ニテ改正同年同月五日ヨリ施行）

附則

第三十條　砂糖消費稅法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附則（三十五年勅令第五十一號追加ノ分）

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年法律第二十一號附則ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（四十三年勅令第八號）

●法律第三十三號　三十五年三月二十五日（四十三年勅令第二百二十四號）

輸入原料砂糖戻稅法

第一條　輸入ノ砂糖ニシテ和蘭標本色相第十五號未滿ノモノヲ原料トシ政府ノ承認ヲ得テ精製糖又ハ氷砂糖ヲ製造スル者ハ其ノ原料砂糖數ノ量ヨリ製造ノ際生成シタル和蘭標本色相第十五號未滿ノ砂糖ノ數量ヲ控除シタル數量ニ對シ左ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得（本項三十八年二月法律第二十七號ニテ改正四十年三月法律第二十六號ニテ再ヒ改正）

一　製品ヲ内地消費ニ供スルトキ

イ　和蘭標本色相第八號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤ニ付一圓四十五錢

ロ　和蘭標本色相第十五號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤ニ付一圓九十五錢

二　製品ヲ外國ニ輸出スルトキ

イ　和蘭標本色相第八號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤ニ付一圓六十五錢

ロ　和蘭標本色相第十五號未滿ノモノヲ原料トシタルトキハ百斤

ニ付金二圓二十五錢

輸入後一箇年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

骨炭ヲ濾過セシメスシテ精製糖ヲ製造スル者ハ第一項ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ス但シ政府ノ認可ヲ得テ骨炭濾過ニ代ハルヘキ方法ヲ用井タル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス（三十七年三月法律第十號ニテ本項追加）

第二條　前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請者ニ輸入稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

附　則

第三條　本法ハ明治三十五年十月一日ヨリ施行シ同日以後輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル原料砂糖ニ之ヲ適用ス

第四條　本法ハ明治四十四年七月十六日迄其ノ効力ヲ有ス（四十年法律第二十六號ヲ以テ四十年三月三十一日トアルヲ四十二年三月三十一日ト改メ更ニ又四十二年三月法律第十二號ニテ本項ノ如ク改正）

附　則（三十七年三月法律第十號ヲ以テ追加ノ分）

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

精砂糖ヲ製造スル輸入原料砂糖ニシテ本法施行前ニ政府ノ承認ヲ得タルモノニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附　則（四十年三月法律第二十六號追加）

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勅令第百四十六號　三十五年四月二十五日

輸入原料砂糖戻税法施行規則

第一條　輸入原料砂糖戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ砂糖消費税法施行規則第十一條ニ依リ提出スル申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第二條　輸入原料砂糖戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スルトキハ原料砂糖ノ種類、量目、輸入税額、輸入年月日及製造シタル砂糖ノ種類量目、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄ノ税務署ニ提出スヘシ

第三條　本令ニ定ムルモノヽ外總テ砂糖消費税法施行規則ヲ準用ス

▲百六

●法律第三十七號　四十一年三月二十六日

煉乳原料砂糖戻税法

第一條　政府ノ承認ヲ得テ砂糖色相和蘭標本第十五號以上ノ砂糖ヲ煉乳製造ノ原料ニ使用シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

使用後十年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ消費税ヲ納付シ又ハ擔保ヲ提供シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第三條　收税官吏ハ第一條ニ依リ承認ヲ與ヘタル砂糖ヲ使用スル場所ニ就キ原料、製品、器具、器械、帳簿書類ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ト認ムル處分ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（本項ハ四十四年法律第四十號ヲ以テ削除セラル）

本法ハ明治四十四年七月十六日限其ノ効力ヲ失フ

●勅令第四十九號　四十一年三月二十六日

●煉乳原料砂糖戻税法施行規則（三十一年…）

第一條　煉乳原料砂糖戻税者第一條ニ依リ砂糖使用ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ其ノ使用スヘキ種類、數量、場所及日時ヲ定メ其ノ製造場所轄税務署ニ申請スヘシ

前項ノ承認ハ毎回五百斤以上ノ場合ニ限リ之ヲ與フルモノトス

第二條　煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ原料砂糖ノ種類、數量ニ消費税額、使用承認年月日、使用年月日又製造シタル煉乳ノ種類、數量、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄税務署ニ提出スヘシ

第三條　煉乳原料砂糖戻税法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製品ノ種類、數量及其ノ製造ノ日

四　他ニ引渡シタル原料又ハ製品ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第四條　收税官吏ハ煉乳製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

五十二

●大藏省訓令第三十一號　三十四年八月廿九日　税務管理局

砂糖消費税ニ關スル檢査簿査定書樣式制定ノ件本文ハ酒税ノ部ニ出ツ

●勅令第五十五號　三十四年八月

砂糖消費税ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

前項法律施行規則ハ臺灣總督之ヲ定ム

●法律第十八號（四十二年三月二十九日）

輸出菓子糖果原料砂糖戻税法

第一條 消費税ヲ課セラレタル砂糖ヲ用ヒ製造シタル菓子又ハ糖果ヲ外國ヘ輸出シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ使用シタル砂糖ニ對スル消費税ニ相當スル金額以下ノ金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

輸出後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 前條ニ依リ下付金ヲ受ケタル菓子又ハ糖果ニ關シテハ明治四十三年法律第五十四號關税定率法第七條第十七號ヲ適用ス（四十四年法律第六號ヲ以テ追加）

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ明治四十四年七月十七日ヨリ之ヲ施行ス（四十四年三月六日法律第六號追加ノ分）

●勅令第六十三號（四十二年三月三十日）

輸出菓子糖果原料砂糖戻税法ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勅令第六十四號（四十二年三月三十日）

輸出菓子糖果原料砂糖戻稅施行規則

第一條　輸出菓子糖果原料砂糖戻稅法ニ依ル下付金額ハ菓子又ハ糖果中ニ含有スル甘蔗糖百斤ニ付金五圓トス

第二條　一回ノ輸出菓子及糖果ノ數量三百斤ニ滿タサル場合ニ於テハ下付金ヲ請求スルコトヲ得ス

第三條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ菓子又ハ糖果ヲ左ノ開港ヨリ輸出スヘシ
横濱、神戸、大阪、長崎、門司、

第四條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ輸出ノ際關稅法施行規則第三十四條第一項ニ依ル申告ノ外菓子又ハ糖果ノ種類、每種類ノ數量、製造者ノ氏名及製造ノ場所ヲ稅關ニ申告シ甘蔗糖ノ含有量ニ付檢定ヲ受クヘシ

第五條　下付金ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書及外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附シテ輸出地稅關ニ提出スヘシ

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勅令第百九十六號　四十四年七月十三日

輸出菓子糖果原料砂糖戻稅法ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

○第十六款ノ三　骨牌税

骨牌税法

●法律第四十四號　三十五年四月四日

第一條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲サムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ骨牌ノ製造ヲ爲サムトスル者ニ在リテハ製造所一箇所毎ニ骨牌ノ販賣ヲ爲サムトスル者ニシテ販賣所ヲ有スル者ニ在リテハ販賣所一箇毎ニ之ヲ受クヘシ

骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セントスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第二條　收税官廳所在地外ニ於テハ政府ハ骨牌製造ノ免許ヲ與ヘス

第三條　骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ毎年製造所一箇所毎ニ免許料六十圓ヲ納ムヘシ

免許料納付ノ期限及方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四條　骨牌ニハ一組毎ニ二十錢ノ税ヲ課ス

第五條　骨牌税ハ骨牌ノ包裹ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

●三十六

第六條　骨牌ヲ製造シ又ハ輸入シタルトキハ製造後二十四時間內又ハ税關若クハ保税倉庫ヨリ引取前ニ於テ一組毎ニ包裹ヲ施シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第七條　貼用印紙ニハ印紙面ヨリ他所ニカケテ消印ヲ爲スヘシ

第八條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ骨牌ノ出入ニ關シ詳細明瞭ニ其ノ事實ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第九條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ハ相當印紙ノ貼用ナキ骨牌第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持スルコトヲ得ス

第十條　相當印紙ノ貼用ナキ骨牌第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ハ税關又ハ保税倉庫ヨリ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條　收税官吏ハ骨牌ノ製造所販賣所又ハ販賣者ニ就キ骨牌ノ製造又ハ販賣上必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得

第十二條　外國ニ輸出スル骨牌及骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ見本ニ供スル骨牌ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ骨牌税ヲ免除ス

前項ノ骨牌ニ付テハ第六條第九條第十條第十五條及第十六條ヲ適用セス

第十三條　骨牌ノ製造ヲ爲ス者免許料ヲ納付セサルトキハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

第十四條　免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造ヲ爲シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ販賣ヲ爲シタル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲シタル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十五條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ讓渡シタルトキハ脫税高二十倍ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ヲ沒收ス但シ脫税高二十倍ノ金額十圓ニ達セサルトキハ十圓ノ罰金ニ處ス

第十六條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者相當印紙ノ貼用ナキ骨牌ヲ所持シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ第六條ノ裝置ヲ爲ササル骨牌又ハ第七條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル骨牌ヲ所持シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第十七條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者骨牌ノ出入ニ關シ帳簿ノ記載ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　收税官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ其ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條　本法ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ヰス但シ刑法第七十五條第一項ノ塲合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條　骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者其ノ責ニ任ス

第二十一條　本法ハ伊呂波加留多、歌加留多及政府ノ認許ヲ得タル骨牌ニ之ヲ適用セス

附　則

第二十二條　本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　本法施行一年前ヨリ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同一ノ塲所ニ於テ引續キ骨牌ノ製造ヲ爲ス者ニハ第二條ヲ適用セス

第二十四條　本法施行前ヨリ骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者本法施行ノ日ヨリ七日以內ニ第一條ニ準シ政府ニ申告スルトキハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

前項ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做サレサル者ノ所持ニ係ル骨牌ハ之ヲ廢毀スヘシ

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ之ヲ沒收ス

第二十五條　本法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條第五條ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ第六條ノ裝置及第七條ノ消印ヲ爲スヘシ

第二十六條　本法ヲ臺灣ニ施行スル迄又ハ臺灣ニ於テ本法ト同一若ハ之ヨリ重キ課税ヲ爲ス迄ハ臺灣ヨリ本法施行地ニ骨牌ヲ移入スルコトヲ得ス

前項ニ違反シタル者ハ三百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ

之ヲ没收ス

●勅令第百五十四號　骨牌稅法施行規則　三十五年五月二十二日

第一條　骨牌ヲ製造セムトスル者ハ製造所及製造スヘキ骨牌ノ種類ヲ定メ免許申請書ヲ製造所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌製造者製造所ヲ增設シ又ハ製造スル骨牌ノ種類ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有シテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ販賣所ヲ定メ免許申請書ヲ販賣所所轄稅務署ニ提出スヘシ骨牌販賣者販賣所ヲ增設セムトスルトキ亦同シ

販賣所ヲ有セスシテ骨牌ヲ販賣セムトスル者ハ免許申請書ヲ其ノ居所所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二條　骨牌製造者製造所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ製造所ヲ定メ許可申請書ヲ其ノ所轄稅務署ニ提出スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有スル者販賣所ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ販賣所ヲ定メ其ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌販賣者ニシテ販賣所ヲ有セサル者其ノ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ居所所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三條 骨牌製造業又ハ骨牌販賣業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

骨牌製造業又ハ販賣業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第四條 骨牌製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第五條 免許料ハ毎年一月中ニ之ヲ納ムヘシ但シ新ニ免許ヲ受ケタル者ハ初年ニ限リ免許ヲ受ケタル月中ニ之ヲ納ムヘシ

骨牌製造者ハ所轄稅務署ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供シテ六回以下ノ分納ヲ申請スルコトヲ得但シ遲クトモ其ノ年十二月ヲ過クルコトヲ得ス

骨牌製造者免許ノ取消ヲ受ケタルトキハ其ノ納付スヘキ免許料ヲ即納スヘシ

第六條 骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所所在地輸入者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第七條 骨牌製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 原料ノ種類、數量及其ノ受入ノ日
二 使用シタル原料ノ種類數量及其ノ使用ノ日
三 製造シタル骨牌ノ種類、組數及其ノ製造ノ日
四 貼用シタル印紙ノ金額
五 他ニ引渡シタル骨牌ノ種類、組數、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第五號引渡先ノ記載ヲ要セス

第八條 骨牌販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル骨牌ノ種類、組數、價額、引取ノ日及引取先
二 貼用シタル印紙ノ金額
三 販賣シタル骨牌ノ種類、組數、價額、販賣日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第三號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第九條 骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造ノ際收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ骨牌ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

前項ノ骨牌ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ骨牌ニ封印ヲ

施シ又ハ之ヲ讓送スルコトアルヘシ

第十條 外國輸出ノ承認ヲ得タル骨牌ニシテ承認後六箇月以內ニ於テ輸出セサルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ骨牌製造者又ハ輸出者ハ直ニ包裹ヲ施シ之ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ製造者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及製造所所在地輸出者ハ之ニ其ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ

第十一條 見本ニ供スヘキ骨牌ハ收稅官吏ニ申出見本ナルコトヲ明ニスヘキ印章ノ押捺ヲ受クヘシ

第十二條 骨牌稅法第二十一條ニ依リ政府ノ認許ヲ得ムトスル者ハ骨牌ノ雛形及用法ヲ添ヘ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十三條 骨牌製造者製造所所在地ニ現住セサルトキハ骨牌稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ骨牌ノ製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

第十五條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 骨牌稅法第二十四條第一項ニ依リ政府ニ申告セムトスル者ハ第一條ニ準シテ申告書ヲ提出スヘシ

第十七條 前條ノ申告ヲ爲シタル者骨牌稅法施行ノ際同法第二十五條ニ依リ骨牌ニ包裹ヲ施シタルトキハ之ニ第六條ノ記載ヲ爲スヘシ

第十八條 骨牌稅法施行ノ際骨牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル骨牌ヲ外國ニ輸出シ骨牌稅ノ免除ヲ得ムトスル者ニ付テハ第九條及第十條ヲ準用ス

第十九條 明治三十五年ニ限リ免許料ハ七月中ニ之ヲ納ムヘシ

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

●勅令第百五十五號　　三十五年五月二十二日

骨牌ニ貼用スヘキ印紙ハ骨牌印紙ニ限ル但シ明治三十五年八月三十一日迄ハ收入印紙ヲ貼用スルコトヲ妨ケス

●大藏省令第十四號　　三十五年六月十日

骨牌印紙ノ形式、貼用方法及其ノ賣下ニ關スル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

明治三十五年勅令第百五十五號第二項ニ依リ骨牌印紙ノ形式及貼用方法左ノ通リ相定ム

第一條　骨牌印紙ノ形式左ノ如シ（三十五年八月省令第八號ニテ形式追加アリ）（形式畧之）

第二條　骨牌印紙ノ貼用方法ハ左ノ如ク包裹ノ外部ヲ四方ヨリ巻キ護謨ノ塗抹アル二箇所ヲ貼付シ其箇所ニ消印スヘシ但シ印紙ノ彩紋ナキ部分ノ餘白ハ適宜之ヲ截チ棄ツルモ妨ナシ（貼用方法略之）

角形骨牌印紙ノ貼用ヲ便宜トスルモノハ其ノ包裹ノ封シ目ニ印紙ヲ貼付シ包裹ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印スヘシ但シ二箇所ニ封シ目アルトキハ拾錢印紙ヲ其ノ各箇所ニ貼付シ本文ノ通消印スヘシ（三十五年八月省令第八號ニテ本項追加）

第三條　骨牌印紙ヲ以テ骨牌ニ帶封ヲ爲シ骨牌税法第六條ノ包裹ニ代用スルコトヲ得

第四條　骨牌印紙ヲ貼用シタル骨牌ヲ更ニ函入レ又ハ包裹ヲ施ストキハ之ヲ糊着スヘカラス

附　則

第五條　本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

●大藏省令第十一號　三十五年六月四日

明治三十五年勅令第百五十五號第二項ニ依リ骨牌印紙賣下賣捌規則左ノ通相定ム

骨牌印紙賣下賣捌規則

第一條　骨牌印紙ハ大藏大臣ノ許可シタル者ニ限リ之ヲ賣捌クコトヲ得

第二條　前條ニ依リ骨牌印紙ノ賣捌ヲ許可シタルトキハ大藏大臣ハ賣捌人ノ住所氏名又ハ名稱及賣捌ノ場所ヲ告示スヘシ

第三條　骨牌印紙賣捌人ハ骨牌印紙賣捌ノ場所タルコトヲ表示スル標札ヲ調製シ公衆ノ認メ易キ場所ニ揭出スヘシ

第四條　骨牌印紙ハ額面ニ對シ百分ノ四ノ割引ヲ以テ賣下クヘシ

第五條ノ一　骨牌印紙ノ賣下ヲ請求セムトスルトキハ賣捌人ハ代金ヲ前納シ賣下請求書ニ代金ノ納付ヲ證スル書類ヲ添附シ税務署ニ提出スヘシ（三十五年省令第二八號ニテ條中改正）

賣下代金一回五百圓以上ナルトキハ税務署長ハ利付國債證券ヲ擔保トシ六箇月以內代金ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

前項國債證劵ノ擔保價額ハ市場ニ於ケル前月ノ平均價格ニ依ル

第五條ノ二 骨牌印紙賣捌人ハ所轄稅務監督局管內ノ骨牌製[illegible]人及其ノ管內ニ於テ骨牌印紙ノ貼用ヲ爲スヘキコトヲ疏明シタル者ニ賣捌クノ外骨牌印紙ノ賣捌クヲ得ス（三十五年八月省令第二十一號ニテ追加 同年同月第二十八號ニテ改正）

第六條 骨牌印紙賣捌人ハ左ノ場合ニ於テ額面ニ對シ百分ノ九ノ割引ヲ以テ骨牌印紙ノ交換又ハ買戻ヲ請求スルコトヲ得

一 骨牌印紙損傷、汚染又ハ糊著シタルトキ

二 骨牌印紙不用ニ歸シタルトキ

第七條ノ一 骨牌印紙賣捌人ハ帳簿ヲ調製シ少クトモ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 買受ケタル印紙ノ金額（額面）及月日

二 賣捌タル印紙ノ金額月日及買受人ノ住所氏名又ハ名稱

第七條ノ二 第五條ノ二ニ違背シタル者ハ骨牌印紙賣捌ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ（三十五年八月省令第二十一號ヲ以テ追加）

附 則

第八條 本令ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大藏省告示第四十五號

三十五年七月二十二日

東京府東京市京橋區築地二丁目七番地 奥村宣信

京都府京都市上京區下立賣通知惠光院西ヘ入下丸屋町五百三番地 山中小兵衛

大阪府大阪市北區堂島中二丁目二十四番屋敷 井上元三郎

愛知縣名古屋市針屋町四十八番 小足萬兵衛

宮城縣仙臺市南町二十四番地 田丸諸五郎

兵庫縣縣神戶市北長狹通二丁目百二十八番屋敷 中村正助

新潟縣新潟市上大川前通五番町第六十八番戶 八木朋直

北海道函館區末廣町百十三番地
鈴木寛

右本月一日骨牌印紙ノ賣捌ヲ許可セリ

●大藏省告示第五十號

長崎縣長崎市西濱町四十二番地
栗岡マサ

長崎縣下縣郡大道茂町三十五番戸
吉田岩治

長崎縣南高來郡口ノ津村百六十五番地
森龜三郎

佐賀縣東松浦郡唐津町四百七番地
平松定兵衛

神奈川縣横濱市南仲通一丁目二番地
左右田金作

以上七月三日

靜岡縣靜岡市[illegible]屋町八十一番地
島井俊三郎

香川縣仲多度郡琴平町二百八十七番戸
福田虎三

以上七月四日

岡山縣兒島郡下津井町四百十三番地
古西卯三郎

岡山縣淺口郡玉島町大字阿賀崎九百番地
大西嘉藏

廣島縣尾道市大字十四日町百六番邸
土屋清三郎

廣島縣御調郡貢村九百五番地
首尾木義三郎

山口縣下關市大字入江町第六十八番屋敷
岡谷福太郎

以上七月七日

右骨牌印紙ノ賣捌ヲ許可セリ

◉三十五年六月九日大藏省訓令第二十九號ヲ以テ三十二年八月同省訓令第六十號租稅ニ關スル現況報告樣式中左ノ通追加アリ

一月一日現在骨牌製造販賣人員及所數表	送付期限	一月二十日迄
前期自四月至九月骨牌貼用印紙高表	同	十月末日迄
後期自十月至三月同　上	同	四月末日迄

◉三十五年六月九日大藏省令第三十號ヲ以テ三十二年六月同省訓令第四十五號國稅ニ關スル諸帳簿樣式中骨牌製造免許臺帳、骨牌製造免許料擔保物臺帳樣式追加アリ

●大藏省令第五十號　三十五年十一月六日

稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取リタル輸入砂糖又ハ骨牌ニ付テハ明治三十二年大藏省訓令第六十號租稅現況報告樣式第二十七號及第三十號ニ準シ其數量等ヲ報告スヘシ

○第十六欵ノ四　府縣稅

●法律第六十四號（抄錄）　三十二年三月十五日

府縣制

第九十八條　府縣ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條　府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第百條　此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百一條　府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百二條　府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ

府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第百三條　府縣税及其ノ賦課徴收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除クノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第百四條　府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百五條　三箇月以上府縣内ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ府縣税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百六條　府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣税ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業若ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第百七條　納税者ノ府縣外ニ於テ所有シ若ハ使用スル土地家屋物件又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府縣税ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滯在二府縣以上ニ渉ル者ノ收入ニ對シ府縣税ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

第百八條　二府縣以上ニ渉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本税ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業税ノ附加税ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定メ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ若協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百九條　府縣税賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其ノ議決ヲ爲シタルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第百十條　府縣税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノヲ除クノ外市町村税ノ例ニ依ル

第百十一條　府縣内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ勅令ノ

定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百十二條　府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣內一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學術美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十三條　府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限リ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第百十四條　市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舍建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ屬スル部分ノ負擔トス

第百十五條　府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以內ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三條第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ

錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以內ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料及手數料ノ徵收ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十六條　府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政官廳ハ日出ヨリ日沒マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得府縣稅使用料手數料夫役現品ニ代フル金錢過料其ノ他府縣ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條第二項ノ場合ニ於テ郡島ノ官吏吏員市町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル

者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
本條第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス
第百十七條　府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得
府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
府縣ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

●法律第六十五號(抄錄)　三十二年三月十五日

郡制

第八十五條　郡ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得
第八十六條　郡ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得
第八十七條　此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得
過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ郡長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ判決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第八十八條　郡ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得
第八十九條　郡ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ
前項ノ負擔ハ財産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノノ外之ヲ郡內各町村ニ分賦スヘシ
第九十條　郡費分賦ノ割合ハ其ノ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケ

ル各町村ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第九十一條　郡內ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第九十二條　郡ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ郡內一部ノ町村ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役又ハ現品ヲ賦課セラレタル町村ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第九十三條　使用料手數料ノ徵收ニ關シ告知ヲ受ケタル者其ノ告知ニ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ告知書ノ交付後三箇月以內ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

郡費ノ分賦ニ關シ町村ニ於テ其ノ分賦ニ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以內ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十四條　使用料手數料過料其ノ他郡ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條第一項ノ場合ニ於テ町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ郡長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第一項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第九十五條　郡ハ其ノ負擔ヲ償還スル爲又ハ郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘ

キ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スニ付郡會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

郡ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス郡參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

●法律第六十八號(抄錄)　四十四年四月六日

市制

第六章　市ノ財務

第一款　財務營造物及市稅

第百九條　收益ノ爲ニスル市ノ財產ハ基本財產トシテ之ヲ維持スヘシ

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第百十條　舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ市會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第百十一條　市ハ前條ニ規定スル財產ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

第百十二條　市ハ第百十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第百十三條　市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第百十四條　財產ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競爭入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百十五條　市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百十六條　市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅

令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手數料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市税及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第百十七條 市税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國税府縣税ノ附加税

二 特別税

直接國税又ハ直接府縣税ノ附加税ハ均一ノ税率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第百六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國税ノ附加税タル府縣税ニ對シテハ附加税ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別税ハ別ニ税目ヲ起シテ課税スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第百十八條 三月以上市内ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ市税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖

市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百二十條 納税者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

市ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本税ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加税ヲ賦課スル場合及住所滯在市ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市税ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百二十一條 所得税法第五條ニ揭タル所得ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地竝教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說敎所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

前四項ノ外市稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百二十二條　數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市ノ一部ヲ利スル營造物ヲ利スル設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部內ニ於テ市稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦仝シ

數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第百二十三條　市稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十四條　數人又ハ市ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百二十五條　夫役又ハ現品ハ直接市稅ヲ準率ト爲シ直接市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第百六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第百二十六條　非常災害ノ爲必要アルトキハ市ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補塡スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ市長、警察官吏又ハ監督官廳ハ市內ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徴シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百二十七條　市税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該官吏ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間內家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第百二十八條　市長ハ納税者中特別ノ事情アル者ニ對シ納税延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

市ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市税ヲ減免スルコトヲ得

第百二十九條　使用料手數料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

財産又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百三十條　市税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徴税令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ市長ニ

異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立
ツルコトヲ得
前二項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其
ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ
裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第一項及前項ノ規定ハ使用料手數料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦
課ニ關シ之ヲ準用ス
前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ
提起スルコトヲ得
前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコ
トヲ得
第百三十一條　市稅、使用料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ市ノ收
入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促
スヘシ
夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期內ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現

品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促ス
ヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期
限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ
前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコ
トヲ得
滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限內ニ
之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ
第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其
ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル
前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ
訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ
得
第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス
第百三十二條　市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ
支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ市債ヲ起スコ

トヲ得
市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ
市長ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款　歲入出豫算及決算

第百三十三條　市長ハ每會計年度歲入歲出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ
市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財產表ヲ提出スヘシ

第百四十條　市ノ支拂金ニ關スル時效ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第百四十一條　市ノ出納ハ每月例日ヲ定メテ之ヲ檢査シ且每會計年度少クトモ二回臨時檢査ヲ爲スヘシ

檢査ハ市長之ヲ爲シ臨時檢査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員二人以上ノ立會ヲ要ス

第百四十二條　市ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス
決算ハ出納閉鎖後一月以內ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ

第九章　市ノ監督

第百五十七條　市ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第百六十六條　左ニ揭クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　市債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第百三十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
二　特別稅ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事
三　間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

○第十六款ノ四　府縣稅

四 使用料手數料及加入金ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

第百六十七條 左ニ揭クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事
二 特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事
三 第百十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事
四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事
六 均一ノ税率ニ依ラスシテ國税又ハ府縣税ノ附加税ヲ賦課スル事
七 第百二十二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
八 第百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事
九 第百二十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ス
十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第十章 雜則

第百七十五條 本法ニ於ケル直接税及間接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

●法律第六十九號（抄錄）

町村制

第五章 町村ノ財産

第一欵 財産營造物及町村税

第八十九條 收益ノ爲ニスル町村ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ

町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第九十條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十一條 町村ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

第九十二條　町村ハ第九十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徴收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徴收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徴收スルコトヲ得

第九十三條　町村ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徴收スルコトヲ得

町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第九十四條　財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競爭入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條　町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十六條　町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手數料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第九十七條　町村税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一　國税府縣税ノ附加税

二　特別税

直接國税又ハ直接府縣税ノ附加税ハ均一ノ税率ヲ以テ之ヲ徴收スヘシ但シ第百四十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國税ノ附加税タル府縣税ニ對シテハ附加税ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別税ハ別ニ税目ヲ起シテ課税スルノ必要アルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十八條　三月以上町村内ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ町村税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十九條　町村内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖町村内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、町村内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百條　納税者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本税ヲ分割シテ納メサル者ニ對シ附加税ヲ賦課スル場合及住所滯在町村ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ町村税ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百一條　所得税法第五條ニ揭クル所得ニ對シテハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地竝教會所説教所ノ用ニ供スル建物及其構内地ニ對シテハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所説教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村税ヲ賦課スル事ヲ得ス

前四項ノ外町村税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百二條　數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ町村税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

第百三條　町村税及其ノ賦課徴收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

數人又ハ町村ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第百四條　數人又ハ町村ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ町

村ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百五條　夫役又ハ現品ハ直接町村稅ヲ準率ト爲シ直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但シ第百四十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第百六條　非常災害ノ爲必要アルトキハ町村ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補塡スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要アルトキハ町村長警察官吏又ハ

監督官廳ハ町村內ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補塡スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ郡長ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百七條　町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間內家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第百八條　町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ハ特別ノ事情アル者ニ限リ町村税ヲ減免スルコトヲ得

第百九條 使用料手數料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

財産又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ町村條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十條 町村税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徴税令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手數料及加入金ノ徴收並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

第二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十一條 町村税、使用料、手數料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期內ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徴收スル

コトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限內ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第百十二條 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款　歲入出豫算及決算

第百十三條 町村長ハ每會計年度歲入歲出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ事務報告書及財產表ヲ提出スヘシ

第百二十一條 町村ノ出納ハ每月例日ヲ定メテ之ヲ檢查シ且每會計年度少クトモ二回臨時檢查ヲ爲スヘシ

檢查ハ町村長之ヲ爲シ臨時檢查ニハ町村會ニ於テ選擧シタル議員二人以上ノ立會ヲ要ス

第百二十二條 町村ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以內ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審查シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第八章　町村ノ監督

第百三十七條　町村ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第百四十六條　左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　町村債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第百十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　特別税ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三　間接國税ノ附加税ヲ賦課スル事

四　使用料手數料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第百四十七條　左ニ掲クル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

一　基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

二　特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事

三　第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事

四　寄附又ハ補助ヲ爲ス事

五　不動産管理及處分ニ關スル事

六　均一ノ税率ニ依ラスシテ國税又ハ府縣税ノ附加税ヲ賦課スル事

七　第百二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

八　第百四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事

九　第百五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十　繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第九章　雜則

第百五十五條　本法ニ於ケル直接税及間接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

●勅令第二百四十一號　四十四年九月二十一日

朕市稅及町村稅ノ賦課ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　市町村ノ內外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ市町村長ハ關係市長北海道、沖繩縣ノ區長ヲ含ム又ハ町村長戸長又ハ之ニ準スヘキモノヲ含ムト協議ノ上其ノ本稅額ノ步合ヲ定ムヘシ

前項ノ協議調ハサルトキハ其ノ郡內ニ止マルモノハ郡長之ヲ定メ其ノ郡島ヲ含ム以下之ニ倣フ市又ハ數郡若ハ數市ニ渉ルモノハ府縣知事之ヲ定メ其ノ數府縣北海道ヲ含ム以下之ニ倣フニ渉ルモノハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第一項ノ場合ニ於テ直接ニ收入ヲ生スルコトナキ營業所アルトキハ他ノ營業所ト收入ヲ共通スルモノト認メ前二項ノ規定ニ依リ本稅額ノ步合ヲ定ムヘシ

府縣ニ於テ數府縣ニ渉ル營業ニ對シ營業稅附加稅賦課ノ步合ヲ定メタルモノアルトキハ其ノ步合ニ依ル本稅額ヲ以テ其ノ府縣ニ於ケル本稅額ト看做ス

第二條　鑛區（砂鑛區域ヲ含ム以下之ニ倣フ）カ市町村ノ内外ニ渉ル場合ニ於テ鑛區稅（砂鑛區稅ヲ含ム）ノ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ鑛區ノ屬スル地表ノ面積ニ依リ其ノ本稅額ヲ分割シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

市町村ノ内外ニ於テ鑛業ニ關スル事務所其ノ他ノ營業所ヲ設ケタル場合ニ於テ鑛産稅ノ附加稅ヲ賦課セムトスルトキハ前條ノ例ニ依ル鑛區カ營業所所在ノ市町村ノ内外ニ渉ル場合亦同シ

第三條　住所滯在市町村ノ内外ニ渉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ市町村稅ヲ賦課セムトスルトキハ其ノ收入ヲ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ

前項ノ住所又ハ滯在其ノ時ヲ異ニシタルトキハ納稅義務ノ發生シタル翌月ノ初ヨリ其ノ消滅シタル月ノ終迄月割ヲ以テ賦課スヘシ但シ賦課後納稅義務者ノ住所又ハ滯在ニ異動ヲ生スルモ賦課額ハ之ヲ變更セス其ノ新ニ住所ヲ有シ又ハ滯在スル市町村ニ於テハ賦課ナキ部分ニノミ賦課スヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十四年度ノ課稅ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

●勅令第二百四十二號　四十四年九月二十一日

市稅及町村稅徵收ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一及第四條ノ三乃至第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

明治三十三年勅令第八十一號第七條ノ二ノ規定ハ市稅及町村稅ノ滯納アリタル場合ニ之ヲ準用ス但シ延滯金ノ割合ハ府縣知事之ヲ定メ滯納ニ付酌量スヘキ情狀アル場合ハ市町村長之ヲ決定ス（本項ハ大正二年六月十六日勅令第二百四十八號追加）

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

附　則（大正二年六月十六日勅令第二百四十八號追加ノ分）

本令ハ本令施行後ニ於テ納期ノ開始スル市稅及町村稅ヨリ之ヲ適用ス

●皇室令第八號　大正二年七月二十九日

地租、地租附加稅及段別割ニ關スル法規ハ皇族賜邸ヲ除クノ外皇族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ皇室財産令第二十一條ニ掲ケタル皇族所有ノ土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

[illegible]

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス[illegible]

●内務省令第十五號　四十四年九月二十二日

市町村財務規程

第一條　市町村税其ノ他一切ノ收入ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ豫算ニ編入スヘシ

第二條　各年度ニ於テ決定シタル歳入ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ歳入ニ充ツルコトヲ得ス

第三條　歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一　市町村條例又ハ豫メ市町村會ノ議決ヲ以テ納期ヲ定メタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度

二　[illegible]

二 定期ニ賦課スルコトヲ得サルカ爲特ニ納期ヲ定メタル收入又ハ隨時ノ收入ニシテ徴税令書又ハ納額告知書ヲ發スルモノハ徴税令書又ハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書等ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第四條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與、傭入料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度但シ別ニ定マリタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

二 通信運搬費、土木建築費其ノ他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル時ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

三 缺損補塡ハ其ノ補塡ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

四 前各號ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第五條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ但シ市町村條例ノ規定又ハ市町村會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財產ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲スコトヲ得

第六條 市町村税ハ徴税令書ニ依リ使用料、手數料及物件ノ貸貸料ハ納額告知書ニ依リ之ヲ徴收ス

前項以外ノ收入ハ納付書ニ依リ收入ス

第七條 支出ハ債主ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 左ノ經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

一 市町村債ノ元利支拂

二 外國ニ於テ物品ヲ購入スル爲必要ナル經費

三 市町村外遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費

前項ノ現金前渡ハ市町村吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得

第九條 左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一 旅費

二 訴訟費用

第十條　官報其ノ他前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十一條　前三條ニ掲クルモノノ外必要アルトキハ市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ現金前渡、概算拂又ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第十二條　歳入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂、概算拂及繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第十三條　出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ

前條ノ拂戻金、戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第十四條　繼續費ハ每年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得

第十五條　歳入歳出豫算ハ必要アルトキハ經常臨時ノ二部ニ別ツヘシ」

歳入歳出豫算ハ之ヲ款項ニ區分スヘシ

第十六條　歳入歳出豫算ニハ豫算說明ヲ付スヘシ

第十七條　特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第十八條　豫算ハ會計年度經過後ニ於テ更正又ハ追加ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條　豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼是流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ市町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第二十條　決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ說明ヲ付スヘシ

第二十一條　會計年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ヲ充用スルコトヲ得

第二十二條　市ハ其ノ歳入歳出ニ屬スル公金ノ受拂ニ付郵便振替貯金ノ法ニ依ルコトヲ得

第二十三條　市町村ハ現金ノ出納及保管ノ爲市町村金庫ヲ置クコトヲ得

第二十四條　金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ市町村會之ヲ定ム

第二十五條　金庫ハ收入役ノ通知アルニ非サレハ現金ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ現金ノ出納保管ニ付市町村ニ對シテ責任ヲ有ス

第二十七條　金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ノ保管スル現金ハ市町村ノ歲入歲出ニ屬スルモノニ限リ支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ市町村ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ハ市町村ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ市町村ニ納付スヘシ

第二十八條　市町村ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス者ヨリ擔保ヲ徵スヘシ其ノ種類、價格及程度ニ關シテハ第一次監督官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十九條　收入役ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金帳簿ヲ檢査スヘシ

第三十條　本令ニ規定スルモノノ外市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ税務ニ關係ナキカ如キモ服務上最モ必要ト認メ茲ニ參考トシテ特ニ登載ス

●内務省令第十六號　四十四年九月二十二日

市町村吏員服務紀律

第一條　市町村吏員ハ忠實勤勉ヲ旨トシ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ盡スヘシ

第二條　市町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ破リ其ノ他品位ヲ傷フノ所爲アルヘカラス

市町村吏員ハ職務ノ内外ヲ問ハス職權ヲ濫用セス懇切公平ナルコトヲ務ムヘシ

第三條　市町村吏員ハ總テ公務ニ關スル機密ヲ私ニ漏洩シ又ハ未發ノ事件若ハ文書ヲ私ニ漏示スルコトヲ得ス其ノ職ヲ退クノ後ニ於テモ亦同シ

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ指揮監督者ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得事實參考ノ爲訊問ヲ受ケタル者ニ付テモ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ市町村吏員ノ掌ル國府縣其ノ他公共團體ノ事務ニ付テハ國府縣其ノ他公共團體ノ代表者ノ許可又ハ承認ヲ得ルコトヲ

要ス

第四條　市町村吏員ハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ供給セシムルノ約束ヲ爲スコトヲ得ス

市町村吏員ハ指揮監督者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ直接ト間接トヲ問ハス自己若ハ其ノ他ノ者ノ爲ニ贈與其ノ他ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　左ニ揭クル者ト直接ニ關係ノ職務ニ在ル市町村吏員ハ其ノ者又ハ其ノ者ノ爲ニスル者ノ饗應ヲ受クルコトヲ得ス

一　市町村ニ對シ工事ノ請負又ハ物件勞力供給ノ契約ヲ爲ス者

二　市町村ニ屬スル金錢ノ出納保管ノ擔任スル者

三　市町村ヨリ補助金又ハ利益ノ保證ヲ受クル起業者

四　市町村ト土地物件ノ賣買贈與貸借又ハ交換ノ契約ヲ爲ス者

五　其ノ他市町村ヨリ現ニ利益ヲ得又ハ得ムトスル者

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●内務省令第十七號　四十四年九月二十二日

市町村吏員事務引繼ニ關スル件

第一條　市町村長更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ助役ニ引繼クヘシ此ノ場合ニ於テハ助役ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニハ書類帳簿及財産ノ目錄ヲ調製シ處分未濟若ハ未着手又ハ將來企畫スヘキ見込ノ事項ニ付テハ其ノ順序方法及意見ヲ記載スルコトヲ要ス

第一項ノ期間内ニ引繼ヲ了スルコトヲ得サルトキハ其ノ事由ヲ具シ第一次監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　助役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ前條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三條　收入役更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼クヘシ後任者ニ引繼クコトヲ得サル事情アルトキハ副收入役又ハ收入役代理者ニ引繼クヘシ此ノ場合

ニ於テハ副收入役又ハ收入役代理者ハ後任者ニ引繼クコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ後任者ニ引繼クヘシ

前項引繼ノ場合ニハ現金書類帳簿其ノ他ノ物件ニ付テハ各目錄ヲ調製シ仍現金ニ付テハ各帳簿ニ對照シタル明細書ヲ添付シ帳簿ニ付テハ事務引繼ノ日ニ於テ最終記帳ノ次ニ合計高及年月日ヲ記入シ且引繼ヲ爲ス者及引繼ヲ受クル者連署スヘシ

第四條　副收入役退職ノ場合ニ於テ其ノ分掌事務アルトキハ之ヲ收入役ニ引繼クヘシ前條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　第一條、第三條又ハ前條ノ規定ハ市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長若ハ區收入役ノ更迭又ハ分掌事務アル區副收入役ノ退職ノ場合ニ第二條ノ規定ハ分掌事務アル町村區長ノ退職ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條　市町村ノ廢置分合ニ依リ新ニ市町村ヲ置キタル場合ニ於テハ前市町村ノ吏員ノ擔任スル事務ハ之ヲ市町村長、收入役又ハ市町村長ノ臨時代理者若ハ職務管掌ノ官吏ニ引繼クヘシ第一條乃至第四條ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス市町村ノ境界變更アリタルトキ亦同シ

第七條　前六條ノ場合ニ於テ引繼ヲ拒ミタル者ニ對シテハ市ニ在リテハ府縣知事町村ニ在リテハ郡長ハ二十五圓以下ノ過料ヲ科スルコトヲ得其ノ故ナク引繼ヲ遲延シタルカ爲市町村長ニ於テ期日ヲ指定シテ催促ヲ爲シ仍之ニ應セサル者ニ付亦同シ

第八條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ府縣知事之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勅令第八十一號　三十三年三月二十九日

朕府縣稅徵收ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　市町村ハ其ノ市町村內ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納入スルノ義務ヲ負フ

前項ノ費用トシテ地租附加稅ニ對シテ其ノ徵收金額ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ千分ノ七其ノ他ノ府縣稅ニ對シテハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ（四十四年十月勅令第二百七十四號ニテ改正）

第二條　市町村ハ避クヘカラサル災害ニ依リ既收ノ稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ稅金納入義務ノ免除ヲ府縣知事ニ申請スルコトヲ得

第三條　府縣知事前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以內ニ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四條　府縣稅ヲ徵收セムトスルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ納稅人ニ交付スヘシ

府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ直ニ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得（本條中第三項ハ三十五年七月勅令第百七十二號ニテ削除）

府縣ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得タル場合ニ限リ前二項ノ例ニ依ラス其ノ府縣ニ於テ發行スル證紙ヲ以テ府縣稅ヲ納入セシムルコトヲ得（大正二年六月勅令第二百四十七號改正）

第五條　徵稅傳令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ市町村ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス（大正二年六月勅令第二百四十七號改正）

徵稅令書ヲ受ケタル納稅人ハ其ノ稅金ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス但シ府縣知事ハ市町村吏員ニシテ納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發セシムル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ラシムルコトヲ得（上同）

市町村ハ其ノ徵收シタル府縣稅ヲ府縣金庫ニ拂込ミ其ノ領收證ヲ得テ稅金納入ノ義務ヲ了ス

稅金ノ拂込又ハ其ノ拂込金ノ納入ニ付郵便振替貯金ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ納稅人又ハ市町村ハ稅金ヲ郵便官署ニ拂込ミ又ハ納入スルニ依リ其ノ義務ヲ了ス（四十四年十月勅令第二百七十四號ニテ追加）

第五條ノ二　第四條第二項ノ規定ニ依リ市町村吏員ヲシテ徵稅令書ヲ

發セシメタル場合ニ於テハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ其ノ市町村ニ對シ取扱費ヲ交付スルコトヲ得（同上）

第六條　徴税令書ヲ受ケタル納税人納期内ニ税金ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ其ノ滞納ノ税目金額及滞納人ノ住所氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ徴税令書ヲ發シタル官吏吏員ニ報告スヘシ

徴税令書ヲ發シタル官吏吏員前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ督促狀ヲ發スヘシ徴税令書ヲ受ケタル納税人納期内ニ税金ヲ完納セサルトキ亦同シ

督促狀ニハ府縣知事ノ定メタル期間内ニ於テ相當ノ期限ヲ指定スヘシ（三十五年七月勅令第百七十三號ヲ以テ改正）

第七條　督促狀ヲ發シタルトキハ手數料ヲ徴收ス

手數料ノ額ハ府縣知事之ヲ定ム（大正二年六月勅令第二百四十七號改正）

市町村吏員ヲシテ督促狀ヲ發セシメタル場合ニ於ケル手數料ハ其ノ市町村ノ收入トス（同上）

第七條ノ二　督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ一日ニ付税金額ノ萬分ノ四

以内ニ於テ府縣知事ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徴收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滞納ニ付酌量スヘキ情状アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス（大正二年六月勅令第二百四十七號改正）

一　令書一通ノ税金額五圓未滿ナルトキ

二　納期ヲ繰上ケ徴收ヲ爲ストキ

三　納税者ノ住所、居所カ帝國内ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納税ノ命令又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ノ指定期限迄ニ税金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滞金ハ之ヲ徴收セス

第八條　納税人左ノ場合ニ該當スルトキハ徴税令書又ハ徴税傳令書ヲ交付シタル府縣税ニ限リ納期前ト雖之ヲ徴收スルコトヲ得（同上）

一　國税徴收法ニ依リ滞納處分ヲ受クルトキ

二　强制執行ヲ受ケタルトキ

三　破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四　競賣ノ開始アリタルトキ
五　法人カ解散ヲ爲シタルトキ
六　納税人脱税又ハ逋税ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第九條　相續開始ノ場合ニ於テハ府縣税、督促手數料、延滯金及滯納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徴收ス但シ戸主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリ之ヲ徴收スルコトヲ得

國籍喪失ニ因ル相續人又ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ヲ限度トシテ府縣税、督促手數料、延滯金及滯納處分費ヲ納付スルノ義務ヲ有ス（三十五年七月勅令第百七十三號大正二年六月同第二百四十七號ニテ改正）

第十條　共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル府縣税、督促手數料、延滯金滯納處分費ハ納税者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス（同上）

第十一條　同一年度ノ府縣税ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徴收スヘキ同一税目ノ税金ニ充ツルコトヲ得（同上）

第十二條　納税義務者納税地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納税ニ

關スル事項ヲ處理セシムル爲納税管理人ヲ定メ市町村長ニ申告スヘシ其ノ納税管理人ヲ變更シタルトキハ亦同シ（同上）

第十三條　徴税令書、徴税傳令書、督促狀及滯納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財産管理人アルトキハ財産管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス納税管理人アルトキハ納税ノ告知及督促ニ關スル書類ニ限リ其ノ住所又ハ居所ニ送達ス（同上）

第十四條　書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス（同上及大正二年勅令第二百四十七號改正）

第十五條　府縣税ノ徴收期ハ府縣知事之ヲ定ム（同上）

第十六條　市制町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル府縣税ノ徴收ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第十七條　本令ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム　（同上）

附則（三十三年勅令第八十一號ヲ以テ追加ノ分）

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則（四十四年十月三十一日勅令第二百七十一號ヲ以テ改正ノ分）

第一條第二項ノ改正ニ關スル規定ハ明治四十五年度分ヨリ之ヲ施行ス

附則（大正二年六月十六日勅令第二百四十七號改正ノ分）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令中延滞金ニ關スル規定ハ本令施行後ニ於テ納期ノ開始スル府縣税ヨリ之ヲ適用ス

△印四十三年三月法律第二十七號ヲ以テ改正　○印四十四年三月二十日法律第十二號ヲ以テ改正

●法律第三十七號　四十一年三月三十日

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地方税制限ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

▲百七

△○第一條　北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ地租附加税又ハ段別割ヲ課スルノ外土地ニ對シテ課税スルコトヲ得ス

一　北海道、府縣（沖縄縣ヲ除ク）、沖縄縣ノ區及町村

附加税ノミヲ課スルトキ　宅地地租百分ノ十三　其ノ他ノ土地地租百分ノ三十二

段別割ノミヲ課スルトキ　一段歩ニ付　毎地目平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ十三、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ三十二ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

二　其ノ他ノ公共團體

附加税ノミヲ課スルトキ　宅地租百分ノ九　其ノ他ノ土地地租百分ノ二十一

段別割ノミヲ課スルトキ　一段歩ニ付　毎地目平均金四十錢

附加税及段別割ヲ併課スル場合ニ於テハ段別割ノ總額ハ其ノ地目ノ地租額宅地ニ在リテハ百分ノ九、其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ二十一ト附加税額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

△第二條　北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ營業税附加税ヲ課スルノ外營業税ヲ納ムル者ノ營業ニ對シ課税スルコトヲ得ス

一　北海道、府縣　營業税百分ノ十一

二　其ノ他ノ公共團體　營業税百分ノ十五

△第三條　北海道、府縣其ノ他ノ公共團體ハ左ノ制限以内ノ所得税附加税ヲ課スルノ外所得税ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課税スルコトヲ得ス

一　北海道、府縣　所得税百分ノ四

二　其ノ他ノ公共團體　所得税百分ノ十五

第二種ノ所得ニ對シテハ附加税ヲ課スルコトヲ得ス

第四條　府縣税ノ全部ヲ市ニ分賦シタル場合ニ於テハ市ハ前三條ノ市税制限ノ外其ノ分賦金額以内ニ限リ府縣税制限ニ達スル迄課税スルコトヲ得

府縣費ノ一部ヲ市町村ニ分賦シタル場合ニ於テハ市町村ハ前三條ノ市町村税制限ノ外其ノ分賦金額以内ニ限リ課税スルコトヲ得但シ府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ府縣税ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

▲百八

△第五條　特別ノ必要アル場合ニ於テハ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ第一條乃至第三條ノ制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以内ニ於テ課税スルコトヲ得

左ニ揭クル場合ニ於テハ特ニ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ヲ超過シテ課税スルコトヲ得

一　内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二　非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三　水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四　傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ニ依リ制限ヲ超過シテ課税スルハ第一條乃至第三條ニ定メタル各税目ニ對スル賦課カ各其ノ制限ニ達シタルトキニ限ル但シ地租附加税及段別割ヲ併課シタル場合ニ於テハ一地目ニ對スル賦課カ制

限ニ達シタルトキハ附加税カ制限ニ達シタルモノト看做ス其ノ段別割ノミヲ賦課シタル場合ニ於テ一地目ニ對スル賦課カ制限ニ達シタルトキ亦同シ

第六條　（四十三年法律第二十七號ヲ以テ削除）

第七條　本法ノ規定ハ特ニ賦課率ヲ定メタル特別法令ノ適用ヲ妨ケス

附　則

本法ハ明治四十一年度ヨリ之ヲ施行ス

非常特別税法中地租、營業税及所得税ノ地方税制限ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

△附　則

本法ハ明治四十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

○附　則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

○第十六款ノ五　非常特別税

全部廢止

（沿革）

三十七年三月三十一日法律第三號ヲ以テ非常特別税發布

○三十七年十二月法律第一號●三十九年三月法律第七號●四十年三月法律第二十七號●四十一年三月法律第十八號、第十九號、第二十號●四十一年二月法律第一號●四十一年三月法律第三十七號●四十三年三月法律第二號、第五號、第七號、第八號、第十號乃至第十七號ヲ以テ條文中改正又ハ廢止●大正二年四月七日法律第十四號ヲ以テ大正二年法律第十三號（所得税法改正）施行ノ日ヨリ全部廢止トナル

○第十六欵ノ六　織物消費税

●法律第七號　四十三年三月二十四日

織物消費税法

第一條　織物ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス

第二條　消費税ノ税率ハ織物ノ價格百分ノ十トス

第三條　左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ免除ス

一　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物

二　製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物、

消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ國外ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條　消費税ハ製造場税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其

ノ價格ヲ表記シ消費稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス

印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費稅額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第五條　消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第六條　消費稅ヲ納付シ又ハ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者ハ其ノ織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クルコトヲ得

第七條　左ニ掲クル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セスシテ織物ヲ引取ルコトヲ得

一　他ノ製造場ニ移出シ又ハ藏置場ニ藏置スル爲織物ヲ引取ルトキ

二　染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

三　一定ノ場所ニ於テ消費稅ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從ヒ製造場又ハ藏置場ヨリ引取ルトキ

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條　消費稅ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戾入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費稅ノ徵收ヲ爲サス

第九條　第四條第一項但書及第七條ノ場合ヲ除クノ外製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際織物ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス

織物引取人前項ノ評定價格ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ依ル價格ト前項ノ決定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用

ハ其ノ申立人ノ負擔トス
印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其ノ差額ニ對スル消費税ヲ追徴ス此ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用ス
第十條　第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス
第十一條　織物製造者ハ第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費税納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス
第十二條　織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ第三條第一項第二號ニ該當スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス
第十三條　織物製造者ハ同一ノ場所ニ於テ織物ノ販賣業又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得織物ノ製造場ト販賣場又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造場トヲ區劃シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十四條　織物ノ製造者、販賣者及前條但書ニ該當スル製品ノ製造者

ハ帳簿ヲ備ヘ織物又ハ製品ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ
第十五條　收税官吏ハ織物ノ製造場、販賣場又ハ第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造場ニ立入リ織物、原料、織物ヲ原料トシテ製造シタル物品、器具、機械、建築物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得
收税官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得
第十六條　收税官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ檢査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收税官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得
第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費税ヲ徴收ス但シ消費税四圓未滿ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス
一　第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタルトキ
二　外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出スル爲消費税ヲ

免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ
消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三 消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ

四 第七條ニ依リ引取リタル織物ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セサルトキ

五 第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第一號ノ場合ニ於テ織物ヲ原料トスル製品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

一 第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者織物又ハ製品ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三 命令ノ定ムル方法ニ依リ織物ニ價格ヲ表記セス又ハ印紙ヲ貼用セサルトキ

四 收税官吏ノ職務執行ヲ拒ミタルトキ

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ刑ノ減免及刑法第四十八條第二項ノ例ヲ用井ス

第二十條 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ヲ處罰ス

附 則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別税法中織物消費税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス但シ同規定ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

●勅令第百八十五號　　四十三年三月二十八日

織物消費稅施行規則

第一條　本令ニ於テ製造者ト稱スルハ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ノミヲ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス

第二條　織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ居所所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第三條　製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得

第四條　所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ織物製造者ニ織物製造場ノ圖面又ハ製造用ノ器具、機械ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第五條　織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ

移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ販賣場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條　織物製造者期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ着手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條　第二條若ハ前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ第四條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條　織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條　織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡シタル者ハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄税務署ノ承認ヲ受クヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造セラルル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄税務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ承認ノ省略ヲ爲スコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄税務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ所轄税務署カ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　消費税ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費税ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ消費税ヲ納付シタルコトノ證憑ヲ具シ輸出港税關ニ其ノ郵便ニ依リ輸出シタル場合ニ於テハ所轄税務署ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ交付金ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際豫メ輸出港税關ニ其ノ旨申告スヘシ但シ郵便ニ依リ輸出スルモノハ所轄税務署ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタル場合ニ於テ消費税ノ免除ヲ得ムトスルトキハ其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルコトノ證憑ヲ具シ之ヲ所轄税務署ニ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ消費税ノ免除ニ關シ之ヲ準用ス

第十三條　織物製造者自巳又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ニ付消費税ノ免除ヲ得ムトスル場合ニ於テハ所轄税務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條　織物消費税法第七條ノ規定ニ依リ織物ヲ引取ラムトスルトキハ其ノ旨所轄税務署ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　織物消費税法第九條第一項ニ依ル價格ノ申告ハ所轄税務署ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條　織物消費税法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ織物ニ印紙ヲ貼用シテ消費税ノ納付ニ代ヘムトスル者ハ其ノ旨所轄税務署ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十七條　織物ニ印紙ヲ貼用スル場合ニ於テハ織物ニ其ノ價格及製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ相當印紙ヲ貼用シ織物面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ糸ヲ以テ紙片ヲ織物ニ縫着シ紙片ニ價格及住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ其ノ糸ノ結束シタル場所ニ相當印紙ヲ貼用シ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スルコトヲ得

第十八條　消費税ヲ納付シ又ハ消費税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物ニ納税濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納税濟證ノ貼付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨所轄税務署ニ申告スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄税務署ハ織物又ハ織物ニ縫着シタル紙片ニ納税濟ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼付シ又ハ納税濟ノ證印ヲ押捺スヘシ

前項ノ規定ニ依リ納税濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納税濟證ノ貼付ヲ受ケタル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄税務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ加工後更ニ納税濟證印ノ押捺又ハ納税濟證ノ貼付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　金庫所在地以外又ハ金庫閉鎖後ニ於テハ收税官吏ハ消費税

金ノ領收ヲ爲スコトヲ得

第二十條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ所轄税務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ

第二十一條　擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄税務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄税務署ハ直ニ消費税ヲ徵收ス

第二十二條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費税納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費税免除ノ確定シタルトキハ所轄税務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　消費税ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物有價證券ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及税金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徴シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第二十四條　織物製造者又ハ織物消費稅法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日
三　製造シタル種類、數量及製造ノ日
四　他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十五條　織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル種類、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所氏名又ハ名稱
二　販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其買受人ノ住所氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記

載スルコトヲ要セス

第二十六條　本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十七條　收稅官吏ハ織物ノ製造者、販賣者又ハ織物消費稅法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得タル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十八條　本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法施行規則ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

●勅令第百八十七號　四十三年三月三十日

織物消費稅法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

●大藏省令第二十五號（抄錄）大正二年七月五日

租稅ニ關スル委員及織物鑑定人手當旅費支給方竝織物消費稅法第九條第五項ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用左ノ通相定ム

第一條 （所得調査委員ノ手當ニ付省畧ス）

第二條 （同上）

第三條 所得調査委員營業稅審査委員相續稅審査委員及織物消費稅法第九條第四項ノ鑑定人審査又ハ鑑定ニ從事シタルトキハ日當金三圓ヲ支給ス但シ官吏ニシテ委員又ハ鑑定人タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 第一條及第三條ノ委員又ハ鑑定人ニシテ官吏ニ非サル者ニハ附表記載ノ所ニ依リ往復旅費ヲ支給ス但シ租稅ニ關スル調査、審査又ハ鑑定ニ從事シタル日ノ旅行ニ付テハ鐵道賃、船賃、車馬賃ノミヲ支給ス

第五條 前條ノ旅費支給ノ方法ニ關シテハ內國旅費規則ヲ準用ス

第六條 租稅官吏ニ非サル官吏在勤官廳所在地ニ於テ鑑定ニ從事スル場合ニ於テハ日當金一圓ヲ支給ス

前項ノ日當ヲ支給スヘキ場合ニ於テハ內國旅費規則第九條ノ日當ヲ支給セス

第七條 織物消費稅法第九條第五項ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ鑑定人ノ日當、旅費及鑑定ニ要シタル實費トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年四月大藏省令第十六號ハ之ヲ廢止ス（節錄）

附表

旅費額

鐵道賃（一哩ニ付）	船賃（一海里ニ付）	車馬賃（一里ニ付）	宿泊料（一夜ニ付）	日當（一日ニ付）
三錢	四錢	二十五錢	一圓五十錢	一圓

◯第十六欵ノ七　鹽專賣法

●法律第十一號　　三十八年一月一日

△三十九年三月法律第十五號ニテ改正

鹽專賣法

第一條　政府ハ鹽ノ專賣權ヲ有ス

第二條　政府ハ便宜ノ地ニ鹽取扱所ヲ設置シ鹽ノ收納及賣渡ヲ取扱ハシム

△第三條　鹽ハ政府又ハ政府ノ命ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコトヲ得ス　△三

智利硝石、「カイニット」、「シルウニット」、「ポリハリット」「キーゼリット」、「カルナリット」「ハルトザルツ」其ノ他ノ礦物ニシテ其ノ百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ變性ヲ施スニ非サレハ之ヲ外國ヨリ輸入シ又ハ本法ヲ施行セサル地ヨリ移入スルコトヲ得ス

△第四條　鹽及鹹水ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス

△第五條　政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ非サレハ所有シ、所持シ、讓渡、質入シ又ハ消費スルコトヲ得ス但シ納付期日前若ハ正當ノ事由ニ因リ納付ヲ遲延シタル場合ニ於テ又ハ製造者ノ自家用ノ爲メ所有、所持スルハ此ノ限ニ在ラス

鹹水ハ之ヲ讓渡シ、質入シ又ハ鹽製造以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ス但シ鹽製造者ニ讓渡スルハ此ノ限ニ在ラス

第六條　政府ハ製鹽地ノ區域又ハ鹽ノ製造期間若ハ生產高ヲ制限スルコトヲ得

前項ニ依ル制限ハ鹽ノ試製ニ之ヲ適用セス

第七條　鹽製造者ノ製造シタル鹽ハ政府之ヲ收納ス但シ命令ノ定ムル制限數量以內ノ鹽ニシテ鹽製造者ノ自家用ニ供スルモノ又ハ政府ヨリ賣渡シタル鹽ニ依リ再製シタル鹽ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　鹽ノ賠償價格ハ政府之ヲ定メ豫メ公示スヘシ

第九條　鹽ヲ製造セムトスル者ハ製鹽ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、貯鹹場及一年ノ生產見込高ヲ定メ政府ニ申請シ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十條　鹽ノ製造業ト鹽ノ賣買業トハ同一ノ場所ニ於テ相兼ヌルコトヲ得ス但シ政府ノ賣渡シタル鹽ニ依リ再製スルハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ其ノ旨政府ニ屆出ツヘシ

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ政府ニ申告スヘシ但シ政府ノ許可ヲ受ケテ製造ヲ廢止スルハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　鹽製造者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ政府ハ製造ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條　鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ總テ之ヲ政府ニ納付スヘシ但シ第七條但書ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

政府ハ鹽製造者ヲシテ前項ニ依リ納付スヘキ鹽ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘキコトヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府カ鹽ノ數量ヲ定メ引渡ヲ命シタルトキハ製造者之ヲ政府ニ納付シタルモノト

看做ス
第十五條　鹽製造者鹽ヲ納付シタルトキハ政府ハ鑑定人ヲシテ其ノ品質ヲ鑑定セシメ相當ノ賠償金ヲ交付スヘシ
製造者前項ノ鑑定ニ不服ナルトキハ再鑑定ヲ求ムルコトヲ得但シ賠償金ノ請求ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
再鑑定ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十六條　鹽製造者ノ納付セムトスル鹽ニシテ其ノ品質甚シク粗惡ナルモノニ付テハ政府ハ更ニ相當ノ處理ヲ爲シタル上納付スヘキコトヲ命スルコトヲ得
第十七條　政府ハ鹽ノ製造又ハ包裝ノ方法、納付場所、納付期日及其ノ運搬通路ヲ定ムルコトヲ得
第十八條　政府ハ定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲スヘシ
前項ノ定價ハ賠償金ヲ交付シテ收納シタル鹽ニ付テハ賣渡當時ノ品質ニ相當スル賠償金ニ一石ニ付金二圓五十錢又ハ百斤ニ付金一圓四十八錢ノ割合ノ金額ヲ加算シタルモノヲ超エテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第十九條　左ニ掲クル鹽ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ定價ヲ以テ之ヲ賣渡スコトヲ得
△一　外國ニ輸出スルモノ又ハ本法ヲ施行セサル地ニ移出スルモノ
二　命令ヲ以テ指定スル用途ニ使用スルモノ
前條ニ依リテ賣渡シタル鹽ニシテ命令ノ定ムル用途ニ使用セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ下付ス
第二十條　政府ハ命令ヲ以テ定メタル數量以上ニ非サレハ鹽ノ賣渡ヲ爲サス
第二十條ノ二　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鹽賣買業者ノ販賣スル鹽ノ價格ヲ制限スルコトヲ得
第二十一條　鹽賣買業者ハ鹽ニ他物ヲ混和シテ販賣スルコトヲ得ス
第二十二條　鹽製造者及鹽賣買業者ハ帳簿ヲ調製シ政府ノ指示ニ從ヒ營業ニ關スル要件ヲ記載スヘシ
第二十三條　當該官吏ハ採鹹地、製鹽場、貯藏場其ノ他鹽ノ所在ト認ムル場所ニ立入リ鹹水、鹽、器具、機械、建築物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

當該官吏監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十四條　當該官吏ハ運搬中ニ在ル鹽ヲ檢査シ其ノ出所及到着先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏監督上必要ト認メタルトキハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ第十八條ノ賣渡定價ニ相當スル金額ヲ追徵ス

一　第三條、第四條又ハ第五條ニ違反シタル者

二　許可ヲ受ケサル土地ニ於テ鹽ヲ製造シタル者

三　情ヲ知リテ政府ヨリ賣渡サヽル鹽ヲ讓受ケタル者

第二十六條　鹽製造者正當ノ事由ナクシテ政府ノ指定シタル者ニ引渡ヲ爲ササルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス政府ノ指定シタル運搬通路ニ依ラスシテ鹽ヲ運搬シタルトキ亦同シ

第二十七條　鹽製造者政府ノ定メタル製造期間外ニ於テ鹽ヲ製造シ又

ハ政府ノ許可シタル場所以外ニ於テ鹽ヲ製造シ若ハ貯藏シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル鹽ハ之ヲ沒收ス情ヲ知リテ其ノ場所ヲ供與シタル者亦同シ

第二十八條　前條ニ該當スル場合ヲ除クノ外鹽製造者許可ヲ受ケスシテ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第十條ニ違反シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

△第三十條ノ二　鹽賣買業者第二十條ノ二ノ制限ヲ超エテ鹽ヲ販賣シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　鹽賣買業者第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ犯罪ニ係ル物件ハ之ヲ沒收ス

第三十二條　鹽製造者又ハ鹽賣買業者其ノ營業ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三

十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十三條　當該官吏ノ尋問ニ對シ虚僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ依ル
第三十四條　政府ヨリ賣渡サヽル鹽ニシテ犯人以外ノ所有ニ係ルモノハ政府之ヲ收納ス此ノ場合ニ於テハ他物ヲ混和シタル鹽ヲ除クノ外第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス
第三十五條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヰス
第三十六條　鹽製造者、鹽賣買業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第三十七條　鹽製造者又ハ鹽賣買業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故

ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
第三十八條　間接國税犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス
間接國税犯則者處分法中收税官吏及税務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三十九條　鹽製造者其ノ製造ノ許可ヲ取消サレ又ハ鹽製造者若ハ鹽賣買業者其ノ業務ヲ廢止スルモ製鹽場、貯藏場又ハ販賣場ニ鹽ノ現在スル間ハ仍本法ノ規定ヲ適用ス
第四十條　本法ニ依リ收納シタル鹽ノ賠償金ノ支拂ニ關シテハ主任ノ官吏ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得
△第四十條ノ二　鹹水ニ關シテハ第六條、第九條乃至第十三條、第二十二條、第二十四條、第二十五條、第二十七條乃至第三十條、第三十二條、第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ規定ヲ準用ス

附　則

第四十一條　本法ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十四條第四項及第四十五條ハ此ノ限ニ在ラス
第四十二條　本法ハ勅令ヲ以テ指定シタル地方ニ之ヲ施行セス

第四十三條　本法施行ノ際鹽消費者ノ所有ニ係ル鹽ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十四條　本法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ政府ニ納付スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條ニ準シ賠償金ヲ交付ス

本法施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ所有シ又ハ所持スル鹽ニ付テハ百斤ニ付金一圓三十錢ノ割合ニ依リ鹽稅ヲ納ムヘシ

前項ノ鹽ヲ所有シ又ハ所持スル者ハ其ノ數量及所在ヲ政府ニ申告スヘシ申告ヲ怠リ又ハ不正ノ申告ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ニ對スル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

鹽稅ノ徵收ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二項ニ依ル納稅濟ノ鹽ハ政府ノ賣渡シタル鹽ト看做ス

納稅期日前ニ於ケル鹽ノ所有又ハ所持ニ關シテハ第五條ヲ適用セス

第四十五條　本法發布前ヨリ鹽ヲ製造スル者ハ本法發布ノ日ヨリ三箇月以內ニ命令ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ第九條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十六條　本法施行ノ際鹽ヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以內ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間內ハ鹽ノ製造ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際鹹水ノミヲ製造スル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇月以內ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ其ノ期間內ハ鹹水ノ製造ヲ爲スコトヲ得

●大藏省令第二十二號　三十八年四月一日

鹽專賣法施行細則［本令中「鹽務局」ヲ「專賣局收納所」ニ「鹽務局長」ヲ「專賣局收納所長」ニ「鹽務官吏」ヲ「專賣官吏」ニ改

（ムト四十一年四月二十九日大藏省令第二十一號ニテ令號アリ）

第一條　鹽ヲ製造セムトスル者ハ製造ノ方法、採鹹地名、地番、製鹽段別、製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場及一箇年ノ生産見込數量ヲ定メ所轄鹽務局ニ製造ノ許可ヲ出願スヘシ

鹽ノ試製ヲ爲サムトスル者及政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ再製セムトスル者ハ其ノ旨ヲ記シ第一項ニ準シ所轄鹽務局ニ製造ノ許可ヲ出願スヘシ

新ニ鹽田ヲ作リ鹽ヲ製造セムトスル者ハ鹽田ヲ作ラムトスル際鹽田ニ依ラスシテ鹽ヲ製造セムトスル者ハ其ノ設備ニ着手セムトスル際第一項ノ出願ヲ爲スヘシ（三十九年省令第十二號ヲ以テ改正）

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ鹽務局ハ鹽ノ製造ヲ許可セサルコトヲ得

一　採鹹セムトスル場所カ製鹽ニ適當ナラスト認ムルトキ

二　鹽專賣法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者カ出願シタルトキ

三　取締上不便ト認ムル場所ニ於テ製鹽セムトスルトキ

四　鹽ノ生產高ヲ制限スル必要アルトキ

第三條　所轄鹽務局ニ於テ必要ト認メ製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ鹽製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

前項ノ圖面又ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第四條　鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ所轄鹽務局ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

一　製鹽ノ方法ヲ變更セムトスルトキ

二　採鹹地ヲ變更シ又ハ製鹽段別ヲ增減セムトスルトキ

三　製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ヲ新設又ハ移轉セムトスルトキ

四　一箇年ノ生產見込數量ヲ變更セムトスルトキ

第五條　相續ニ因リ鹽ノ製造ヲ承繼シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄鹽務局ニ申告スヘシ

相續ニ因ルノ外鹽ノ製造ヲ承繼セムトスルトキハ製造者及承繼者連

署シ所轄鹽務局ニ出願シ許可ヲ受クヘシ但シ鹽務局ニ於テ正當ノ事由アリト認メタルトキハ製造者ノ連署ヲ要セス

●二十九

第六條　鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ少クトモ一箇月前ニ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

前項ノ期間ヲ經過セスシテ鹽ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ所轄鹽務局ニ廢止ノ許可ヲ出願スヘシ

第七條　鹽製造者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

一　製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ヲ改築又ハ增築シタ

ルトキ

二 災害ニ因リ採鹹地、製鹽場、鹹水又ハ鹹砂貯藏場、製鹽貯藏場ニ異動ヲ生シタルトキ

三 住所又ハ氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキ

第八條 鹽製造者鹽ノ製造ヲ廢止シ又ハ休止シタルトキ現存スル鹹水又ハ鹹砂ハ鹽務官吏ノ承認ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第九條 鹽製造者製鹽場所在市町村ニ現在セサルトキハ鹽專賣法ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲管理人ヲ定メ鹽製造者及管理人連署シ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第十條 鹽製造者ハ製鹽場ニ一箇年ノ製鹽見込數量、製造者又ハ管理人ノ住所、氏名、許可ノ年月日ヲ記載シタル標札ヲ揭クヘシ

第十一條ノ一 鹽ノ賠償價格ハ毎年十二月ニ於テ其ノ翌年ニ適用スヘキモノヲ定メ之ヲ告示スヘシ但シ翌年中ニ於テ特殊ノ事情アリタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得（四十年一月二十三日省令第二號ヲ以テ追加）

第十一條ノ二 鹽專賣法第六條第一項ニ依リ鹽ノ製造期間又ハ生產高ヲ制限スル必要アルトキハ鹽務局長ハ鹽ノ製造期間又ハ生產高ヲ定メ之ヲ鹽製造者ニ通知スヘシ（同上省令ヲ以テ第十一條ヲ第十一條ノ二ト改正ス）

第十二條　鹽製造者鹽ヲ製造シタルトキハ少クトモ二日ヲ經過シタル後之ヲ所轄鹽務局ニ納付スヘシ

第十三條　鹽務局長ハ特ニ鹽製造者ヲ指定シ一定ノ期間毎ニ其ノ製造シタル鹽ノ數量ヲ鹽務局ニ申告セシムルコトヲ得

鹽務局長ハ前項ノ鹽製造者ニ對シ鹽ノ數量ヲ定メ之ヲ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘキコトヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ之ヲ指定シタル者ニ引渡スヘシ

第十四條　鹽製造者前項ニ依リ鹽務局長ノ定メタル期日又ハ場所ニ於

テ鹽ノ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄鹽務局ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第十五條　鹽製造者ハ代理人ヲ以テ鹽ノ納付ヲ爲スコトヲ得

運送業者カ鹽製造者又ハ其ノ代理人ヨリ納付ノ爲鹽ノ運送ヲ委託セラレタルトキハ運送中ハ其ノ代理人ト爲リタルモノト看做ス

第十六條　鹽製造者ノ納付スヘキ鹽ニハ一定ノ包裝ヲ施スヘシ但シ鹽務局長ハ包裝ヲ施ササル鹽ノ納付ヲ許可スルコトヲ得

包裝ノ方法、重量及一包裝ノ鹽數量ハ所轄鹽務局長之ヲ定ム

第十七條　鹽ノ品質ハ其ノ含有スル鹽化曹達ノ量ニ依リテ之ヲ定メ左ノ五等ニ區分ス

一等　含有鹽化曹達量百分ノ九十以上

二等　含有鹽化曹達量百分ノ八十五以上

三等　含有鹽化曹達量百分ノ八十以上

四等　含有鹽化曹達量百分ノ七十五以上

五等　含有鹽化曹達量百分ノ七十以上

前項鹽化曹達ノ量ハ可檢物ノ量ヨリ其ノ含有スル水及夾雜物ノ量ニ

左ノ係數ヲ乘シタルモノヲ控除シテ之ヲ定ム
一　水　　一、一
二　夾雜物　　一、二

第十八條　塩製造者ノ納付セムトスル塩ニシテ前條五等ノ品質ニ達セサルトキハ塩務局長ハ製造者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ但シ第十三條第二項ノ場合ニ於テ塩務局長ノ指定シタル者カ引取ヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　塩製造者塩ヲ納付シタルトキハ塩務局ハ其ノ品質ヲ鑑定シ相當ノ賠償金ヲ交付ス

第二十條　塩製造者前條ノ鑑定ニ不服アルトキハ其ノ要領ヲ具シ即時再鑑定ヲ求ムルコトヲ得
再鑑定ノ申立アリタルトキハ塩務局長ハ二人以上ノ鑑定人ヲシテ分析鑑定ヲ爲サシメ之ヲ決定スヘシ
再鑑定決定シタルトキハ其ノ決定書ヲ作リ再鑑定申立人ニ交付スヘシ
再鑑定ノ結果ニ依ル品質ノ等級カ最初鑑定シタル等級ヨリ上進セサ

ルトキハ再鑑定ニ關スル費用ハ申立人ノ負擔トス

第二十一條　塩製造者災害ニ因リ納付前ノ塩ニ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ具シ所轄塩務局ニ申告スヘシ

第二十二條　塩製造者ノ自家用ニ供スル塩ニシテ政府ニ納付スルコトヲ要セサルモノハ一箇年一人ニ付二十斤以內トス但シ一家ヲ通シテ一箇年三百斤ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十三條　塩製造者其ノ製造シタル塩ノ一部ヲ自家用ニ供セムトスルトキハ豫メ申告シテ塩務官吏ノ檢査ヲ受ケ政府ニ納付スヘキ塩ト區別シテ貯藏スヘシ

第二十四條　塩製造者政府ヨリ賣渡シタル塩ヲ鹹水ニ混和シテ塩ヲ製造シタルトキハ其ノ製造シタル塩ノ全部ヲ政府ニ納付スヘシ但シ塩務官吏ノ檢査ヲ受ケ混和塩及製造塩ノ數量ニ付其ノ承認ヲ得タルトキハ混和塩ノ數量ニ相當スル製造塩ハ政府ニ納付スルコトヲ要セス

第二十五條　鹹水ノミヲ以テ塩ヲ製造スル者政府ヨリ賣渡シタル塩ノ再製ヲ兼營スルトキハ政府ヨリ賣渡シタル塩、之ヲ以テ製造シタル塩及鹹水ノミヲ以テ製造シタル塩ヲ各別ニ區分シテ貯藏スヘシ

△三十九年省令第十二號ニテ追加

第二十六條　政府ヨリ賣渡シタル鹽ノ再製ヲ爲ス者ハ一箇月每ニ其ノ再製シタル鹽ノ數量ヲ所轄鹽務局ニ申告スヘシ

第二十七條乃至第三十六條（四十一年四月大藏省令第二十一號ニテ削除）

第三十七條　鹽製造者ハ少クトモ每日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　採取シタル鹹水ノ容量及比重
二　煎熬シタル鹹水ノ容量及比重
三　焚上ケタル釜數及鹽ノ數量
四　政府ニ納付シタル鹽ノ數量、等級、納付年月日
五　自家用トシテ檢査ヲ受ケタル鹽ノ數量
△六　讓渡シタル鹹水ノ容量、比重、價額、讓渡月日及讓受人
△七　讓受ケタル鹹水ノ容量、比重、價額、讓受月日及讓渡人

政府ヨリ賣渡シタル鹽ヲ再製スル者ハ少クトモ每日左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　買入レタル鹽ノ數量、價額、買入月日、買入先
二　使用シタル原料鹽ノ數量

三　製造シタル鹽ノ數量
△四　賣渡シタル鹽ノ數量、價格、賣渡月日及賣渡先

△鹹水ノミノ製造ヲ爲ス者ハ少クトモ每日前項第一號及第六號ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第三十八條（四十一年四月二十九日大藏省令第二十一號ニテ削除）

第三十九條（四十年九月二十七日大藏省令第三十九號ニテ削除）

第四十條　本令中鹽務局ニ屬スル事務ハ鹽務局出張所アル地方ニ於テハ鹽務局出張所之ヲ行フ

第四十條ノ二　鹹水ノ製造ニ關シテハ第一條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス（三十九年省令第十二號ニテ追加）

附　則

第四十一條　本令ハ鹽專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條　鹽專賣法施行ノ際製造者ノ所有又ハ所持スル鹽ハ明治三十八年六月三十日迄ニ之ヲ鹽務局ニ納付シ又ハ鹽務局長ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

附　則（三十九年省令第十二號追加）

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（四十一年四月大藏省令第二十一號追加ノ分）

本令ハ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勅令第百三十四號　　三十八年四月十三日

鹽專賣法第四十二條ニ依リ左ノ地方ニ當分ノ內同法ヲ施行セス

一東京府管下小笠原島及伊豆七島

一鹿兒島縣管下馬毛島、口ノ永良部島、竹島、硫黃島、鷹島、津唐瀨、黑島、東島、宇治島、雙島、草垣島、口之島、中之島、臥蛇島、平島、諏訪瀨島、惡石島、鳥子島、寶島、上ノ根島、橫當島、喜界島、諦島、與路島、德之島、沖永良部島及與論島

一沖繩縣管下伊平屋島、伊是名島、具志川島、野甫島、屋奈葉島、古宇利島、伊江島、瀨底島、面那島、伊計島、宮城島、平安座島、濱島、津堅島、久高島、前島、黑島、渡嘉敷島、座間味島、屋加比島、阿嘉島、慶留間島、久場島、渡名喜島、粟國島、鳥島、久米島、奧武島、大葉島、池間島、大神島、來間島、水納島、多良間島、竹富島、喜彌眞島、小濵島、里島、新城島、西表島、內離島、外離島、沖神島、嶋間島、波照間島、大東島、魚釣島及與那國島

●大藏省告示第十五號　　四十二年二月十七日

鹽專賣規則第十六條ニ依リ徵收スル鹽保管料ハ千斤ニ付一日金二錢トス

◎塩引取ノ際之ヲ徵收ス

●勅令第百五十七號　三十八年五月八日裁可 九日公布

塩専賣特別定價賣渡及交付金下付規則

（沿革）△三十八年十月勅令第二百十四號○三十九年三月勅令第三十六號●四十年三月勅令第百九號▲四十一年六月勅令第百五十二號ヲ以テ改正同年七月一日施行、四十二年九月勅令第二百二十五號改正同年十一月一日施行

△▲第一條　塩専賣法第十九條第一項第二號ニ依リ特別定價ヲ以テ賣渡スコトヲ得ル塩ハ左ノ用途ニ使用スルモノニ限ル

〇一　塩酸、曹達、硫酸曹達、晒粉製造用

丶二　石鹸製造用

●三　肥料、選種、家畜用

四　獸皮保存用

五　鑛業用

六　鮭、鱒、鱈、膃肭獸塩藏用

△▲第一條ノ二　塩専賣法第十九條第一項第三號ニ依リ特別定價ヲ以テ塩ノ賣渡ヲ為スハ左ノ場合ニ限ル

一　塩賣捌人ニ非サル者一回一萬斤以上塩ノ賣渡ヲ請求シタルトキ

二　塩元賣捌人カ大藏大臣ノ定ムル制限價格以內ニ於テ塩ノ販賣ヲ

爲サザルトキ
第二條　外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡請求スルコトヲ得ル者ハ輸出者、又ハ第一條第六條ノ用途ニ使用スル漁獲者ニ限ル
第三條　外國ニ輸出スル鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ種類、數量、等級輸出港及輸出先ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ鹽專賣官署ニ提出スヘシ
第四條　第一條ノ用途ニ使用スル鹽ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ鹽ノ種類、數量、等級、用途及使用場所ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ鹽專賣官署ニ提出スヘシ但シ第一條第六號ノ用途ニ使用セムトスル場合ニ在リテ漁獲物ノ種類、出漁船名、搬積載船名、寄港地名及鹽ノ運搬方法ヲモ記載スヘシ
第五條　外國ニ輸出シ又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル鹽ニ付テハ鹽專賣官署ハ賣渡請求者ヲシテ其ノ請求數量ニ依リ鹽專賣法第十八條ニ依リ賣渡ス定價ト外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ス定價トノ差額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ニ依リ提出スヘキ擔保物ハ金錢、國債證券、地方債證券又ハ專賣局長官ノ指定シタル株式會社ノ株券若ハ債券ニ限ル
擔保ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ鹽專賣官署ニ提出スヘシ
第六條　第一條第一號乃至第五號ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル鹽ニ付テハ鹽專賣官署ハ其ノ用途ニ從ヒ買受人ノ費用ヲ以テ鹽ノ重量百ニ對シ左ノ割合以上左記物品ノ一ヲ混和シ鹽ノ變性ヲ施スヘシ

一　鹽酸、曹達、硫酸曹達製造用

酸性硫酸曹達	三
●石油	一
發煙鹽酸	二、五
苛性曹達	二、五
純硫酸	五
硫酸曹達	六

二　咽粉製造用

純硫酸	二

三 満俺鑛　石鹸製造用	一、五
●石油	一
的列並油	〇、三
石鹸粉末	一、五
椰子油	五
曹達灰	五
四 肥料、選種用	
硫酸曹達	一〇ニ灰四ヲ混シタルモノ
●石灰	五ニ灰四ヲ混シタルモノ
●農薬粉	〇、二五ニ油煙〇、〇五ヲ混シタルモノ
●魚油	一ニ油煙〇、〇五ヲ混シタルモノ
●コールタール	〇、〇一
●四ノ二　家畜用	
辨柄	〇、一ニ農薬粉ヲ混〇、二五シタルモノ

五 獸皮保存用	
●石油	一
石鹸粉末	一、五
六 鑛業用	
満俺鑛	一、五
石灰	一〇
硫酸鐵	四
金、銀、銅鑛ノ粉末又ハ其沈物	五
●石油	一
硫化鐵	五
木炭粉末	二、五
石炭粉末	二、五

第七條　第一條第一號乃至第五號ノ用途ニ使用スル爲變性ヲ施シタル鹽及第一條ノ二ニ依リ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ除クノ外特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ運搬シ又ハ貯藏スルトキハ其ノ他ノ鹽ト之ヲ區別スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ當該官吏ハ其ノ鹽ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

○▲、第八條 外國ニ輸出スル爲又ハ第一條ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡請求書ニ記載シタル目的ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ賣渡鹽專賣官署ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ但シ外國ニ輸出スル者又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル者ニ讓渡セムトスルトキハ讓受人ノ連署ヲ要ス

第六條ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ニシテ第一條第二號乃至第五號ノ用途中相互ノ變更ニ付テハ前項ノ出願ヲ要セス賣渡鹽專賣官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

▲、第九條 外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ第一條第一號乃至第五號ノ用途ニ使用シ又ハ使用スル者ニ讓渡スルノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テハ第六條ノ規定ヲ準用ス

鹽ヲ外國輸出及第一條ノ用途以外ニ供シ又ハ供スル者ニ讓渡スルコトヲ許可スルトキハ鹽專賣官署ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ定價ト鹽專賣法第十八條ニ依リ賣渡ス定價トノ差額及其ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ追徵ス

◎二十八

外國ニ輸出スル爲賣渡シタル內地鹽ヲ第一條ノ用途ニ、第一條第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡シタル內地鹽以外ノ鹽ヲ外國輸出又ハ第一條第二號乃至第六號ノ用途ニ供スルコトヲ許可スルトキハ鹽專賣官署ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ各特別定價ノ差額ニ相當スル金額ヲ追徵ス

▲、第十條 鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者賣渡請求書ニ記載シタル輸出港、輸出先、使用場所、漁獲物ノ種類、出漁船名、鹽積載船名又ハ鹽ノ運搬方法ヲ變更セムトスルトキハ賣渡、專賣官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ外國ニ輸出セムトスルトキハ其ノ輸出申告書ニ少クトモ鹽ノ種類、數量、輸出先、積載スヘキ船舶名及其ノ內國寄港地ヲ記載スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ稅關ハ鹽ノ種類、數量ヲ檢定スヘシ

△○第十二條 （削除）

△第十三條 第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者漁獲物ヲ鹽藏シタルトキハ漁獲物ノ種類、數量、漁獲及鹽藏ノ場所及時期、漁獲物ノ仕向先ヲ記載シタル鹽使用濟證明申請書ヲ鹽藏地所轄鹽專賣官署ニ提出シ鹽藏物ノ檢査ヲ經テ鹽使用濟證明書ノ交付ヲ受

クヘシ但シ鹽專賣法施行地外ニ於テ鹽藏シタルトキハ其ノ申請書ヲ賣渡鹽專賣官署又ハ豫メ其ノ官署ノ指定シタル鹽專賣官署ニ提出スヘシ

前項ニ依ル鹽藏物ノ檢査ハ鹽專賣官署所在地又ハ鹽專賣官署ノ指定シタル地ニ於テ之ヲ行フ

鹽專賣官署ノ證明スル鹽使用濟數量ハ鹽藏物ノ重量百ニ對シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ計算ス但シ其ノ數量カ賣渡シタル鹽ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ賣渡數量ニ依ル

鹽鮭	四十五
鹽鱒	五十五
鹽鱈	二十五
開鱈	三十二
無骨開鱈	八十
鹽鯨赤肉	二十七
鹽鯨尾羽	四十
鹽漬膃肭獸	百

第十四條　外國ニ輸出スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ六箇月以内ニ左ノ書類ヲ賣渡鹽專賣官署ニ提出スヘシ

一　輸出免狀又ハ外國ニ輸出シタルコトヲ證明スヘキ書類

一　外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スヘキ書類

鹽ヲ輸出シタル後海難ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ以テ前項第二號ノ書類ニ代フルコトヲ得（四十四年三月勅令第二十號ニテ本項追加）　△四十四

△○、第十五條　第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ賣渡ノ日ヨリ一箇年以内ニ鹽專賣官署ノ交付シタル鹽使用濟證明書ヲ賣渡鹽專賣官署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ賣渡ノ日ヨリ一箇年以内ニ鹽全部ノ使用濟證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ未使用鹽ニ付一箇年每ニ税務署又ハ鹽專賣官署ノ承認ヲ申請シ其ノ證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ賣渡鹽專賣官署ニ提出スヘシ但シ其ノ鹽カ帝國内ニ在ルトキハ其ノ地所轄專賣官署、所轄專賣官署ノ檢査ヲ受ケ難キ場合ニ於テハ所轄税務署、所轄專賣官署又ハ税務署ノ檢査ヲ受ケ難キ場合ニ於テ

ハ所轄專賣官署、帝國外ニ在ルトキハ專賣局長官ノ指定又ハ認ムル官
公衙ハ檢査ヲ經テ未使用鹽證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ提出シテ鹽專賣
官署ノ證明書ニ代フルコトヲ得但シ其ノ鹽ノ帝國内ニ在ルトキハ[illegible]

△第十六條 外國ニ輸出スル爲又ハ第一條ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡
ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ鹽專賣官署ハ賣渡當時
ノ數量ニ依リ其ノ定價ト鹽專賣法第十八條ニ依リ賣渡ス定價トノ差
額及其ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ追徴ス

一 許可ヲ受ケスシテ其ノ鹽ヲ外國輸出及第一條ノ用途以外ニ供シ
又ハ供スル者ニ讓渡シタルトキ[illegible]

二 第十四條又ハ第十五條ニ依リ提出スヘキ書類ヲ其ノ期間内ニ提
出セサルトキ[illegible]

外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケ
タル者ノ其ノ目的ニ供シタル鹽ノ數量ハ賣渡シタル鹽ノ數量ニ對シ
不足シタル場合ニ於テ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ鹽專賣官署
ハ其ノ不足額ニ對シ前項ノ金額ヲ追徴スルコトヲ得但シ第十五條第
二項ニ依リ承認ヲ受ケタル未使用鹽ハ其ノ不足額ニ算入セス

◎二十九

第一條第一號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ外國輸出又ハ第一條第二號乃至第六號ノ用途ニ供シタルトキハ各特別定價ノ差額及其ノ五分ノ一ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第十六條ノ二 外國ニ輸出スル爲又ハ第一條ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ鹽專賣官署ハ賣渡當時ノ數量ニ依リ其ノ定價ト鹽專賣法第十八條ニ依リ賣渡ス定價トノ差額ニ相當スル金額ヲ追徴ス

一 外國ニ輸出スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ第一條ノ用途ニ供シタルトキ

二 第一條第二號乃至第五號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ外國輸出又ハ第一條第六號ノ用途ニ供シタルトキ（四十四年勅令第二十號ニテ改正）

三 第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ外國輸出又ハ第一條第一號乃至第五號ノ用途ニ供シタルトキ

四 外國ニ輸出スル爲又ハ第一條第六號ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ

受ケタル鹽ヲ許可ヲ受ケスシテ外國輸出又ハ第一條ノ用途ニ供スル者ニ讓渡シタルトキ

五 申告ヲ爲サスシテ第十條ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキ

六 第四條ノ賣渡請求書及第十一條ノ輸出申告書ニ記載シタル寄港地以外ノ内國沿岸ニ寄港シタルトキ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事項アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

△▲、第十七條 第九條第十六條第十六條ノ二及第二十一條ノ二及第二十七條ノ追徴金ニ關シテハ國税徴收法及國税徴收法施行規則ノ規定ヲ準用ス

△●、第十八條 第五條ニ依リ提供シタル擔保ハ其ノ鹽ヲ外國ニ輸出シ若ハ漁獲物鹽藏用ニ供シタルコトヲ證明セラレタルトキ又ハ其ノ不足額ニ對スル追徴金ヲ納付シタルトキ之ヲ解除ス

第十八條ノ二 外國ニ輸出スル爲又ハ第一條ノ用途ニ使用スル爲鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者ニ關スル規定ハ其ノ鹽ノ轉得者ニ之ヲ準用ス

（四十四年勅令第二十號ニテ追加）

○●▲、第十九條 鹽專賣法第十八條又ハ本令第一條ノ二ニ依リ賣渡シタル鹽ヲ左ノ目的ニ供シタル者ハ左ノ割合ヲ以テ交付金ノ下付ヲ政府ニ請

求スルコトヲ得

一 外國ニ輸出シタルトキ（四五年勅令第一五一號大正元年同第四二號改正次項亦同）

輸出鹽 百斤ニ付金一圓三十錢但シ内地鹽以外ノ鹽ニ付テハ金二十六錢ヲ加フ

二 第一條第一號、第二號、第四號乃至第六號ノ用途ニ使用シタルトキ

使用鹽 百斤ニ付金一圓三十錢但シ内地鹽以外ノ鹽ニシテ第一條第一號ノ用途ニ使用シタルモノニ付テハ金二十七錢ヲ加フ

三 其ノ鹽ヲ以テ鹽藏シタル鯨、鯖又ハ鱸ヲ輸出シタルトキ（四三年勅令第三四二號四五年同一五一號大正元年同四二號改正）

使用鹽 百斤ニ付金一圓三十錢但シ内地鹽以外ノ鹽ニ付テハ金二十六錢ヲ加フ

鹽藏魚類ニ對スル使用鹽ノ數量ハ鹽藏魚類ノ重量百ニ對シ左ノ割合ヲ以テ計算ス此ノ場合ニ於テハ第十三條第三項但書及第二十六條第三項但書ノ規定ヲ準用ス

内地鹽ヲ使用シタルモノ

鹽漬鯨 四十六

鹽漬鯖	三十六
鹽漬鰮	四十
撒水漬鰊及鯖	五十二
内地鹽以外ノ鹽ヲ使用シタルモノ	
鹽漬鰊	四十三
鹽漬鯖	三十四
撒漬鰮	三十八
撒水漬鰊及鯖	四十九

四　其ノ鹽ヲ以テ製成シタル醬油ヲ輸出シタルトキ（四三年勅令第三四二號四五年同第一五一號改正）

製成醬油　一石ニ付金六十三錢

、第二十條　前條第一號又ハ第三號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ交付金下付申請書ニ左ノ書類ヲ添付シ之ヲ輸出港所轄鹽專賣官署ニ提出スヘシ但シ前條第三號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ特ニ鹽專賣官署ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外使用鹽檢定書ヲモ添付スヘシ（本條ハ四三年勅令第三四二號四四年同第二〇號大正元年同第四二號改正）

一　輸出免狀又ハ外國ニ輸出シタルコトヲ證明スヘキ書類

二　外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スヘキ書類

鹽又ハ鹽藏魚類ヲ輸出シタル後海難ニ因リ滅失シタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ以テ前項第二號ノ書類ニ代フルコトヲ得

第一項但書ノ使用鹽檢定書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ第二十四條及第二十五條ノ規定ニ準シ鹽ノ檢定ヲ受クヘシ

第一項ノ場合ニ於テ鹽カ内地鹽以外ノモノニシテ使用鹽檢定書ヲ添附セサルモノナルトキハ交付金下付申請書ニ鹽ノ種類ヲ證明スヘキ書類ヲモ添附スヘシ

第三項ノ場合ニ於テ檢定ヲ受クヘキ鹽カ内地鹽以外ノモノナルトキハ其ノ檢定申請書ニ種類ヲモ記載スヘシ

第三項ニ依リ使用鹽ノ檢定ヲ受ケタル者ト其ノ鹽藏魚類ノ輸出者ト異ナルトキハ第一項ノ交付金下付申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ鹽、鹽藏魚類又ハ魚類ノ讓受ニ關スル證明書類ヲモ添附スヘシ

前條第四號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ交付金下付申請書ヲ輸出港所轄鹽專賣官署ニ提出スヘシ

◎三十一

前項ノ場合ニ於テ鹽專賣官署ハ輸出港所轄稅關ニ於テ還石稅下戾ノ決定ヲ爲シタル後ニ非サレハ交付金ヲ下付セス

、第二十一條　第十九條第一號第三號又ハ第四號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ其ノ輸出申告書ニ少クトモ鹽、鹽藏魚類又ハ製成醬油ノ種類、數量、輸出先、積載船名及其ノ內國寄港地名ヲ記載スヘシ但シ內地鹽以外ノ鹽ヲ以テ鹽藏シタル魚類ヲ輸出シ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ニ在リテハ輸出申告書ニ其ノ鹽ノ種類ヲモ記載スヘシ（四三年勅令第三四二號大正元年同第四二號改正）

前項ノ申告アリタルトキハ稅關ハ鹽、鹽藏魚類又ハ製成醬油ノ數量ヲ檢定スヘシ

、第二十一條ノ二　第十九條第三號又ハ第四號ニ依リ交付金ノ下付ヲ受ケタル鹽藏魚類又ハ製成醬油ヲ輸入シタルトキハ輸入港所轄鹽專賣官署ニ於テ其ノ輸入者ヨリ交付金ニ相當スル金額ヲ追徵ス（本條四三年勅令第三四二號改正）

前條ニ依リ追徵金ヲ納入シタル後ニ非サレハ輸入者ハ其ノ鹽藏魚類又ハ製成醬油ヲ稅關ヨリ引取ルコトヲ得ス

▲○、第二十二條　第十九條第二號ニ依リ第一條第一號、第二號、第四號及第五號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ對シ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ交付金下付申請書ニ鹽使用證明書又ハ鹽變性證明書ヲ添付シ使用地又ハ變性地所轄鹽專賣官署ニ之ヲ提出スヘシ但シ第一條第一號ノ用途ニ使用シタル內地鹽以外ノ鹽ニ對シ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ內地鹽以外ノ鹽ナルコトヲ證明スヘキ書類ヲモ添附スヘシ（四三年勅令第三四二號大正元年第四二號改正）

▲○△第二十三條　前條ノ鹽使用證明書又ハ味噌使用證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用ノ際申請書ヲ使用地所轄鹽專賣官署ニ提出スヘシ前條ノ鹽變性證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用前申請書ヲ所轄鹽專賣官署ニ提出スヘシ（四三年勅令第三四二號改正）

前條ノ鹽變性證明書ノ交付ヲ請求セムトスル者ハ鹽使用前申請書ヲ鹽ノ所在地所轄鹽專賣官署ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ鹽專賣官署ハ第六條ニ準シ鹽ノ變性ヲ施スヘシ

▲、第二十三條ノ二　前條第三項ニ依リ變性ヲ施シタル鹽ヲ第一條第一號乃至第五號以外ノ目的ニ、第一條第一號ノ用途ニ使用スヘキ鹽ヲ第

一條第三號乃至第五號ノ用途ニ供シ又ハ供スル者ニ讓渡セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ其ノ地所轄鹽專賣官署ニ變更ノ許可ヲ出願スヘシ

第一條第二號乃至第五號ノ用途中相互ノ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ其ノ鹽ヲ外國輸出及第一條ノ用途以外ニ供スルコトヲ許可スルトキハ第九條ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケスシテ其ノ目的ヲ變更シタル者ニ付テハ第十六條及第十六條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第二十四條　鹽專賣法施行地內ニ於テ漁獲ヲ爲ス者第十九條第二號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ出漁前第二十五條ニ準シタル鹽檢定申請書ヲ鹽藏地又ハ出港地所轄鹽專賣官署ニ提出シ使用鹽ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ニ依ル使用鹽ノ檢定ハ鹽檢定申請書ヲ受理シタル鹽專賣官署所在地又ハ其ノ官署ノ指定シタル地ニ於テ之ヲ行フ但シ鹽專賣官署所在地外ニ於テ檢定地ヲ指定シタルトキハ其ノ地所轄稅務署又ハ警察

官署ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第二十五條　鹽專賣法施行地外ニ於テ漁獲ヲ爲ス者第十九條第二號ニ依リ交付金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ出漁前使用鹽ノ數量、漁獲物ノ種類、漁獲及鹽藏ノ場所、出漁船名、鹽積載船名、寄港地名及鹽ノ運搬方法ヲ記載シタル鹽檢定申請書ヲ出港地所轄鹽專賣官署ニ提出シ使用鹽ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ニ依ル使用鹽ノ檢定ハ鹽檢定申請書ヲ受理シタル鹽專賣官署所在地又ハ其ノ官署ノ指定シタル鹽專賣官署所在地ニ於テ之ヲ行フ

第二十六條　前二條ニ依リ鹽ノ檢定ヲ受ケタル者漁獲物ヲ鹽藏シタルトキハ漁獲物ノ種類、數量、漁獲及鹽藏ノ場所及時期、漁獲物ノ仕向先ヲ記載シタル鹽使用證明申請書ヲ鹽ノ檢定地所轄鹽專賣官署又ハ豫メ其ノ官署ノ指定シタル鹽專賣官署ニ提出シ鹽藏物及殘存鹽ノ檢査ヲ經テ鹽藏用ニ供シタル鹽ノ使用證明書ノ交付ヲ受クヘシ（本項改正）

（三年九月勅令第三百四十二號改正）

前項ニ依ル鹽藏物及殘存鹽ノ檢査ハ鹽使用證明申請書ヲ受理シタル鹽專賣官署所在地又ハ其ノ官署ヲ指定シタル地ニ於テ之ヲ行フ但シ

鹽藏物ト共ニ殘存鹽ノ檢定ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ第十五條第二項但書ノ規定ヲ準用シ殘存鹽ノ檢査ニ代フルコトヲ得

鹽專賣官署ノ證明スル鹽使用數量ハ第十三條第三項ニ準シ之ヲ計算ス但シ其ノ鹽ノ數量カ檢定ヲ受ケタル鹽ノ數量ニ對シ不足シタル場合ニ於テ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ其ノ鹽ノ數量ニ依ル

、第二十六條ノ二　第十九條第二號ニ依リ第一條第六號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ對シ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル漁獲者ハ交付金下付申請書ニ鹽使用證明書ヲ添付シ鹽藏物檢査地所轄鹽專賣官署ニ之ヲ提出スヘシ

、第二十六條ノ三　第二十四條及第二十五條ノ鹽檢定申請書ニ記載シタル漁獲物ノ種類、漁獲及鹽藏ノ場所、出漁船名、鹽積載船名又ハ鹽ノ運搬方法ヲ變更セムトスルトキハ鹽ノ檢定地所轄鹽專賣官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第二十六條ノ四　第二十四條又ハ第二十五條ニ依リ檢定ヲ受ケタル鹽ヲ第一條第六號ノ用途ニ使用スル者ニ讓渡セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ讓受人ノ連署ヲ以テ鹽ノ檢定地所轄鹽專賣官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ（大正元年勅令第四二號改正）

前項ニ依リ鹽ヲ讓受ケタル者ハ其ノ鹽ニ付檢定ヲ受ケタルモノト看做ス

、〇△第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ交付金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ス（四三年勅令第三四二號 大正元年勅令第四二號改正）

一　外國ニ輸出シタル鹽又ハ鹽藏魚類ニ付テハ輸出後六箇月、製成醬油ニ付テハ輸出後一箇年、第一條第一號、第二號、第四號乃至第六號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ付テハ使用後六箇月ヲ經過シタルトキ

二　外國ニ輸出シタル鹽、鹽藏魚類又ハ製成醬油ニ付テハ一回ノ輸出量千斤未滿、第一條第一號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ付テハ一回ノ使用量千斤未滿、第一條第二號、第四號及第五號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ付テハ一回ノ使用量五百斤未滿、第一條第六號ノ用途ニ使用シタル鹽ニ付テハ第二十六條ニ依リ鹽專賣官署ノ證明スル一回ノ鹽使用量五百斤未滿ナルトキ

三　第二十一條ノ輸出申告書又ハ第二十四條及第二十五條ノ塩檢定申請書ニ記載シタル寄港地以外ノ內國沿岸ニ寄港シタルトキ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四　申告ヲ爲サスシテ第二十六條ノ三ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキ

外國ニ輸出シタル塩又ハ塩藏魚類ニ對スル陸揚證明書ノ數量カ輸出免狀ニ記載シタル塩又ハ塩藏魚類ノ數量ニ對シ不足シタル場合ニ於テ正當ノ事由ナシト認メタルトキハ其ノ不足額ニ對シ交付金ヲ下付セス

第二十條第四項第六項若ハ第二十二條ノ場合ニ於テ虛僞ノ書類ヲ提出シ又ハ第一項第五號ノ場合ニ於テ虛僞ノ申告ヲ爲シ交付金ノ下付ヲ受ケタルトキハ其ノ交付金額及其ノ五分ノ二ニ相當スル金額ヲ追徵ス

第二十八條　塩專賣法ヲ施行セサル地ニ移出スル塩ノ特別定價賣渡及交付金下付ニ付テハ本令中外國輸出塩ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第二十一條第二項及第二十一條第二項準用ノ場合ニ於テ稅關ノ事務ハ移出地所轄塩專賣官署之ヲ行フ

第二十九條　漁獲者ニ非ラサル者生鮮ナル鮭、鱒、鰹、鯨又ハ膃肭獸ヲ塩藏セムトスルトキハ其ノ使用塩ノ特別定價賣渡及交付金ノ下付ニ付本令中漁獲者ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第十三條及第二十六條ノ塩使用證明書ニ關スル申請書ニハ漁獲物ノ買入先ヲモ記載スヘシ

◎三十五

附　則

本令ハ塩專賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（三十八年十月勅令第二百二十四號改正追加ノ分）

本令ハ明治三十八年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（三十九年三月勅令第三十六號追加ノ分）

本令ハ明治三十九年法律第十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル塩ヲ本令施行前ニ於テ醬油釀造ニ使用シタル者、本令施行前ニ於テ溜醬油ノ釀造ニ味噌ヲ使用シタル者及醬油釀造ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ塩ノ賣渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ本令施行後ト雖仍舊規定ヲ適用ス

一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル塩ヲ本令施行後ニ於テ醬油釀造ニ使用

スル者ニ對シテハ其ノ塩ノ総量ヲ本令施行後三十日以内ニ使用地所轄税務署ニ申告シ其ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限リ仍舊規定ヲ適用ス

（自第一號至第四號專式界之）

○附　則（四十年三月勅令第十九號改正ノ分）

本令ハ明治四十年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル塩ヲ本令施行前ニ於テ第一條第六號ノ用途ニ使用シタル者及一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル塩ヲ本令施行前ニ於テ第十九條第二號又ハ第四號ノ目的ニ供シタル者ニ對シテハ本令施行後ト雖仍舊規定ヲ適用ス

附　則（四十二年九月三十日勅令第二百二十九號改正ノ分）

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前外國輸出又ハ第一條ノ用途ニ使用スル爲賣渡ヲ受ケタル塩ニ關スル第九條第一項ノ追徴金及第十九條各號ノ目的ニ供シタル塩ニ對スル交付金ニ付テハ本令施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル

附　則（四十三年九月十日勅令第三百四十二號改正ノ分）

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（四十四年三月十四日勅令第二十號改正追加ノ分）

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（四十五年七月十九日勅令第百五十二號改正ノ分）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前第十九條各號ノ目的ニ供シ若ハ其ノ目的ニ供スル爲變性ヲ受ケタル塩又ハ漁獲物塩蔵用ニ供スル爲檢定ヲ受ケタル塩ノ交付金額ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル塩專賣法ヲ施行セサル地ニ移出シタル塩ノ交付金額ニ付亦同シ

附　則（大正元年十一月五日勅令第四十二號改正ノ分）

本令ハ大正元年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前交付金ノ下付ヲ受クヘキ事由ヲ生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

イ二十六

●大藏省訓令第二十號　四十三年九月十二日　稅關

沿革（大正元年十一月六日大藏省訓令第二號ニテ一部分改正／同二年四月十二日同第七號ニテ第三條ノ二中改正）

明治二十八年勅令第百五十七號ニ依ル鹽、鹽藏魚類及製成醬油ノ輸出ニ關シ稅關事務取扱方左ノ通相定メ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月大藏省訓令第二十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（正文自第一條至第九條／書式自第一號至第五號　本書略之）

●大藏省令第三十二號　三十八年五月九日

明治三十八年勅令第百五十七號塩専賣特別定價賣渡及交付金下付規則第十七條ノ施行ニ關シテハ國税徵收法施行細則ノ規定ヲ準用ス國税徵收法施行細則ニ依リ税務署長ニ屬スル職務ヲ行フヘキ官吏ハ塩務局長又ハ塩務局出張所トス

附則

本令ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勅令第百五十八號　三十八年五月八日裁可九日公布

第一條　政府ニ於テ外國産塩又ハ塩専賣法ヲ施行セサル地方ノ産塩ヲ購入スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第二條　塩務局ニ於テ塩ノ賣渡ヲ為ストキハ會計規則第八十二條ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

附則

本令ハ塩専賣法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎三十七

●大藏省告示第九十二號　三十八年四月一日

塩専賣法第八條ニ依リ塩ノ百斤當賠償價格別表ノ通相定ム但シ塩専賣法施行細則第十三條第二項ニ依リ塩務局長ノ指定シタル者ニ引渡スヘキ塩ニ付テハ各等級金三錢ヲ低減ス

撒塩ノ儘納付スル塩ニ付テハ前項ノ賠償金額ヨリ各等級金六錢ヲ低減ス

塩専賣法施行細則第十八條但書ヲ適用シタル塩ニ付テハ五等ノ賠償價格以下ニ於テ相當ノ賠償價格ヲ定ム

別表（三十九年九月二十七日大藏省告示第八六四號ヲ以テ改正シ更ニ四十年五月二日同第八十八號ヲ以テ全部改正同日ヨリ施行）

賠償區域	一等	二等	三等	四等	五等
大阪府、兵庫縣、岡山縣、廣島縣、徳島縣、山口縣、香川縣、愛媛縣、高知縣ノ内幡多郡宿毛町、福岡縣ノ内築上郡、大分縣	円 一、四〇〇	円 一、二七〇	円 一、一五〇	円 一、〇四〇	円 〇、九四〇
奈良縣、三重縣、愛知縣、静岡縣、和歌山縣	一、四三〇	一、三〇〇	一、一六〇	一、〇七〇	〇、九七〇

北海道廳、東京府、京都府、神奈川縣、新潟縣、埼玉縣、群馬縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、山梨縣、滋賀縣、岐阜縣、長野縣、宮城縣、福島縣、岩手縣、青森縣、山形縣、秋田縣、福井縣、石川縣、富山縣、鳥取縣、島根縣	一、五三〇	一、三九〇	一、二七〇	一、一六〇	一、〇六〇
長崎縣、高知縣(幡多郡宿毛町ヲ除ク)、福岡縣、(築上郡ヲ除ク)、佐賀縣、熊本縣、宮崎縣、鹿兒島縣	一、四九〇	一、三六〇	一、二四〇	一、一三〇	一、〇三〇
沖繩縣	一、四三〇	一、二六〇	一、一六〇	一、〇四〇	〇、九三〇

●大藏省告示第百號　四十一年六月十六日

沿革〔四一年一二月大藏省告示第一七一號、四二年一〇月同第一四八號、四三年四月第五八號、四四年三月同第二元號、同年七月同第八三號、四五年二月第二〇號、同年三月同第四一號、同年四月同第五五號同年六月同第九六號大正元年十一月同第三八號改正〕

政府ノ賣渡ス鹽ノ百斤當價格左ノ通相定メ明治四十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第一條ノ二第一號ノ場合ニ於テ政府カ其ノ請求者ニ、同條第二號ノ場合ニ於テ政府カ鹽小賣人ニ賣渡ス内地鹽ノ價格ハ明治四十四年十二月大藏省告示第百五十二號ノ各賠償價格ニ左ノ金額ヲ加ヘタルモノトス

一　第一區ニ於テ收納シタル鹽ニ付テハ金一圓四十三錢

二　第二區、第三區及第四區ニ於テ收納シタル鹽ニ付テハ金一圓四十七錢

三　第五區ニ於テ收納シタル鹽ニ付テハ金一圓四十六錢

撤鹽ニテ收納シタル鹽ニ付テハ其ノ賠償價格ニ前各號ノ金額ノ外尚金一錢ヲ加フ

第二條　鹽專賣法第十八條ニ依リ鹽元賣捌人ニ賣渡ス内地鹽ノ定價ハ前條ノ賣渡價格ヨリ其ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

第三條　鹽專賣法第十八條ニ依リ鹽賣捌規則第二條第二項ニ依リ特ニ

◉三十八

指定シタル鹽元賣捌人ニ賣渡ス鹽ノ定價左ノ如シ
一 臺灣鹽　上等鹽金二圓二十七錢竝等鹽金二圓二十錢但シ包裝シタル鹽ニ付テハ金十二錢ヲ加フ
二 關東州鹽　上等鹽金二圓二十八錢竝等鹽二圓二十六錢
三 歐米鹽　粗製鹽金三圓三十錢、待別鹽各購買價格ニ金五圓五十錢ヲ加ヘタルモノトス
第四條　鹽專賣法第十九條第一項第一號ニ依リ外國ニ輸出シ又ハ鹽專賣法ヲ施行セサル地ニ移出スル鹽及專賣鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第一條ノ用途ニ供給スル鹽ノ賣渡價格左ノ如シ
一 內地鹽　第一條ノ各賣渡價格ヨリ金一圓四十一錢ヲ減シタルモノ但シ外國ニ輸出シ又ハ鹽專賣法ヲ施行セサル地ニ移出スル鹽ニ付テハ其ノ賠償價格ニ依ル
二 臺灣鹽　上等鹽金八十六錢竝等鹽金七十九錢但シ包裝シタル鹽ニ付テハ金十二錢ヲ加フ
輸出、移出ニ關スル上等鹽金七十一錢鹽酸、曹達、硫酸曹達、晒粉製造ニ使用スル上等鹽金七十一錢竝等鹽金六十三錢但シ包

裝シタル鹽ニ付テハ金十二錢ヲ加フ
三 關東州鹽　上等鹽金八十七錢、竝等鹽金八十五錢
輸出、移出ニ供スル上等鹽金七十二錢、竝等鹽金七十錢鹽酸、曹達、硫酸曹達、晒粉製造ニ使用スル上等鹽金六十五錢竝等鹽金六十三錢
四 歐米鹽　粗製金一圓八十九錢
第四條　（削除）
第五條　（削除）
第六條　鹽賣捌規則第十條ノ鹽回送費ハ專賣局長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收スルモノトス
第七條　第三條第一號、第二號及第四條第二號、第三號ノ價格ハ三田尻專賣支局門司出張所ニ於テ賣渡ス價格トス
三田尻專賣支局門司出張所以外ノ鹽專賣官署ニ於テ臺灣鹽又ハ關東州鹽ヲ賣渡ス場合ニ於テハ第三條第一號、第二號及第四條第二號、第三號ノ價格ノ外門司ニ於ケル政府ノ購買價格ト其ノ地ニ於ケル購買價格トノ差額ヲ加算スルモノトス

三十九

●大藏省告示第五百八十二號　三十八年十二月十三日

塩ノ包裝ニ叺ヲ使用スルノ件左ノ通相定メ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　塩製造者塩ヲ納付セムトスルトキハ叺ヲ以テ之ヲ包裝スヘシ但シ塩務局長ノ特ニ指定シタルモノニ付テハ包裝ヲ爲サス又ハ叺以

外ノ包裝ヲ爲スコトヲ得

第二條　包裝ノ種類ハ正味八十斤入、四十斤入、二十斤入及十斤入ノ四種トス但シ叺ニアリテハ八十斤入、四十斤入ノ二種ニ限ル

前項ノ規定ハ特別ノ事情アル地方ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ經タル場合ハ之ニ依ラサルコトヲ得（三十九年九月告示第八六三號ヲ以テ本條追加）

第三條　叺ハ左記ノ標準ニ依リ藁ヲ以テ之ヲ製スルコトヲ要ス叺以外ノ包裝ニアリテハ塩務局長ノ適當ト認メタルモノニ依ルヘキモノトス（同上訓令ヲ以テ第二條ヲ第三條ニ改メ第一項第二項中幾分改正ス左記各號中ノ幾分三十九年五月告示第六五七號ニテ改正）

一　正味八十斤入

縱内測二尺五寸　横二尺七寸

縱外測二尺六寸

縱掛繩二本ニテ三箇所　横掛繩二本ニテ二箇所

總風袋量凡五百匁以上

二　正味四十斤入

縱内測一尺九寸　横二尺三寸

縱外測二尺

縱掛繩二本ニテ三箇所　横掛繩二本ニテ一箇所

總風袋量凡三百匁以上

鹽製造者ハ前項ノ各包裝中ニ於テ鹽務局長ノ指定シタルモノヲ以テ納付鹽ヲ包裝スルコトヲ要ス

第四條　叺ヲ以テ包裝シタル鹽ヲ納付シタルトキハ明治三十八年大藏省告示第九十二號ニ依リ包裝鹽ノ賠償價格ニ左ノ金額ヲ加ヘタルモノヲ以テ其賠償價格トス（同上訓令ニテ第三條ヲ第四條ニ改メ左記金額ヲ五錢ヲ四錢ニ八錢ヲ七錢ニ改ム）

一　正味八十斤入　百斤ニ付金四錢

二　正味四十斤入　百斤ニ付金七錢

●大藏省令第十三號　三十九年三月三十日

含鹽礦物輸入移出規則

第一條　鹽專賣法第三條第二項ニ揭ケタル礦物ヲ輸入シタル者アル場合ニ於テ稅關カ其ノ礦物百分中四十以上ノ鹽化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ輸入者ハ稅關ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

前項輸入礦物ノ變性ハ其ノ礦物ノ重量百ニ對シ智利硝石ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石六十、「カイニット」「シルヴィニット」「ポリハサット」「キーゼリット」「カルナリット」「ハルトサルツ」其ノ他ノ礦物ニ付テハ百分中五以下ノ鹽化曹達ヲ含有スル智利硝石「カイニット」「シルヴィニット」「ポリハリット」「キーゼリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」若ハ其ノ他ノ礦物六十ヲ混和

シテ之ヲ爲スモノトス

第二條　塩專賣法第三條第二項ニ掲ケタル礦物ヲ塩專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入シタル者ハ直ニ移入地所轄ノ塩務局ヘ其ノ品名、用途、數量、仕入地名及積載船舶名ヲ記載シタル移入申告書ヲ提出スヘシ

第三條　前條ノ移入申告アリタル場合ニ於テ塩務局カ其ノ礦物百分中四十以上ノ塩化曹達ヲ含有スルモノナリト檢定シタルトキハ移入者ハ第一條ニ準シ塩務局ノ指揮監督ニ從ヒ其ノ礦物ノ變性ヲ施スヘシ

附　則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大藏省訓令第八號　三十九年三月三十日

税關、塩務局

含塩礦物檢定手續　（三十九年四月一日ヨリ施行）

第一條　塩專賣法第三條第二項ニ掲ケタル礦物ノ含有塩化曹達量ハ左ノ試驗方法ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

智利硝石ノ試驗方法

一　五十瓦ノ可檢礦物ヲ蒸餾水ニ溶解シ五百立方「センチメートル」トナシ之ヲ濾過スヘシ

二　第一號ノ溶液二十立方「センチメートル」ヲ取リ蒸餾水ヲ加ヘテ二百立方「センチメートル」トナシ其二十五立方「センチメートル」ヲ分取シ格魯謨酸加里液ヲ標示藥トナシ之ニ十分ノ一定規硝酸銀液ヲ加ヘ其ノ注加シタル同液ノ立方「センチメートル」ニ一、四二ヲ乘シ總塩素量ヲ算出スヘシ

三　第二號ノ總塩素量ニ一、六五ヲ乘シ塩化曹達ノ量ヲ算出スヘシ

○十八

「カイニット」「シルヴイニット」「ポリハリット」「キーゼリット」「カルナリット」「ハルトザルツ」其ノ他ノ礦物ノ試驗方法

一　五十瓦ノ可檢礦物ヲ蒸餾水ニ溶解シ五百立方「センチメートル」トナシ之ヲ濾過スヘシ但シ場合ニ依リ少シク煆灼シテ溶解シ又ハ煮沸シテ之ヲ溶解スヘシ

二　第一號ノ溶液二十立方「センチメートル」ヲ取リ蒸餾水ヲ加ヘテ二百立方「センチメートル」トナシ其ノ二十五立方「センチメートル」ヲ分取シ格魯謨酸加里液ヲ標示藥トナシ之ニ十分ノ一定規硝酸銀液ヲ加ヘ其ノ注加シタル同液ノ立方「センチメートル」ニ一、四二ヲ乘シ總塩素量ヲ算出スヘシ

三　可検礦物ヲ以テ適度ノ濃度ヲ有スル溶液ヲ作リ其百立方「センチメートル」ニ炭酸重土五瓦ヲ加ヘ約十五分間煮沸シ後蒸餾水ヲ加ヘテ百瓦トナシ之ヲ濾過シタル後其ノ濾過五十瓦ヲ秤取シ二分ノ一定規炭酸亞爾加里液十立方「センチメートル」ヲ加ヘ約十五分間煮沸シ蒸餾水ヲ加ヘ百瓦トナシテ之ヲ濾過シ其ノ濾液八十瓦ヲ秤取シ之ニ「メチールオレンヂ」液ヲ加ヘテ標示藥トナシ二分ノ一定規鹽酸液ヲ以テ過剩ノ炭酸亞爾加里ヲ逆測シ亞爾加里金屬以外ノ金屬ト化合シタル鹽素ノ量ヲ算出スヘシ

四　可検礦物ヲ以テ適度ノ濃度ヲ有スル溶液ヲ作リ之ニ一定量ノ「コバルト」液（硝酸「コバルト」三十分ヲ蒸餾水六十分ニ溶解シタル液ニ亞硝酸曹達五十分ヲ蒸餾水百分ニ溶解シタル液ヲ加ヘ更ニ氷醋酸十分ヲ加ヘテ攪拌シ一晝夜間放置シテ得タル上澄）ヲ加ヘ一定時間内ニ於テ黄色沈澱ノ分離スル狀態ニ依リ加里ヲ檢定シ之ニ化合シタル鹽素ノ量ヲ算出スヘシ

五　第二號ノ總鹽素量ヨリ第三號及第四號ノ鹽素量ヲ減シ其ノ殘數ニ一（一六五）ヲ乘シ鹽化曹達ノ量ヲ算出スヘシ

第二條　含鹽鑛物ノ變性ヲ爲サシムル場合ニ於テ其ノ混和スヘキ鑛物ノ含有鹽化曹達量ハ前條ノ試驗方法ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第三條　含鹽鑛物ノ輸入又ハ移入アリタルトキハ其ノ含有鹽化曹達量ノ多寡ニ拘ハラス稅關又ハ鹽務局ハ毎月左ノ書式ニ依リ含鹽鑛物輸入（移入）表ヲ調製シ翌月十五日マテニ之ヲ大藏省ニ報告スヘシ

含鹽鑛物輸入（移入）表

輸入（移入）年月日	輸入（移入）者氏名	品名	仕入地	數量	用途	含有鹽化曹達量	變性ノ有無方法
				斤			

●大藏省訓令第三十五號

三十八年四月十二日

税關　税關支署

鹽專賣法施行後税關ニ於テ鹽ヲ没收シタルトキハ之ヲ所轄鹽務局又ハ鹽務局出張所ニ引渡スヘシ

●大藏省訓令第二十五號　三十九年五月二十八日

鹽務局長

鹽價ノ騰貴ハ細民ノ最モ苦痛トスル所ナルヲ以テ鹽專賣ノ執行ニ付テハ消費者ヲシテ常ニ過當ノ負擔ナカラシムルコトヲ期スルヲ要ス元來鹽價ハ產鹽不作ニシテ供給不充分ナルカ又ハ交通ノ障害アリタル場合ニ於テ其ノ騰貴スルハ固ヨリ已ムヲ得サルヘシト雖賣買業者ノ如何ニ依リテハ平時ト雖或ハ不當ノ價格ヲ以テ之ヲ販賣スルモノナキヲ保セス今回法令ヲ以テ政府ハ隨時鹽價ヲ制限シ得ヘキコトヲ定メタルハ蓋シ此ノ趣旨ニ外ナラサルヲ以テ將來鹽ノ供給ニ付テハ十分ノ注意ヲ加フルト同時ニ平素其ノ管內ニ於ケル鹽ノ取引ヲ査察シ不當ノ價格ヲ以テ販賣スル者アリト認メタルトキハ營業者ヲ戒飭シ時宜ニ應シテハ本大臣ニ經伺ノ上適當ノ制限ヲ加フルノ手段ヲ取ル等消費者ヲ保護スルコトニ注意スヘシ但シ常識ニ反シタル干涉ニ不相成樣深ク注意スヘキハ勿論ナリ

●大藏省令第二十號　四十一年四月二十九日

沿革（四一年八月大藏省令第三八號、四十三年三月同第九號、四四年三月同第八號、四五年六月同第二五號改正）

鹽賣捌規則

第一條　鹽元賣捌人ハ政府ヨリ鹽ヲ買受ケ之ヲ鹽小賣人ヘ賣渡スモノトス

鹽小賣人ハ鹽元賣捌人ヨリ鹽ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス」

鹽元賣捌人ハ他ノ鹽元賣捌人ト鹽ヲ賣買シ又ハ一回千斤以上ニ限リ直接消費者ニ鹽ヲ賣渡スコトヲ得

鹽賣捌人ハ特ニ鹽專賣官署ノ認可シタル場合ニ限リ鹽賣捌人ニ非サル者ヨリ鹽ヲ買受クルコトヲ得

第二條　鹽元賣捌人及鹽小賣人ハ必要ニ應シ二箇年以內ノ期間ヲ以テ鹽專賣局長官之ヲ指定ス

第三條　外國ヨリ輸入シ又ハ鹽專賣法ヲ施行セサル地ヨリ移入スル鹽ニ付テハ專賣局長官ハ特ニ其ノ賣捌人ヲ指定スルコトヲ得

鹽賣捌人死亡ノ場合ニ於テハ其ノ相續人ハ專賣局長官ニ申告シテ殘期間其ノ營業ヲ承繼スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ鹽賣捌人

ニ指定セラルヽコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ申告ハ塩賣捌人死亡ノ日ヨリ一箇月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四條　（削除）

第五條　塩賣捌人タラムトスル者ハ第一號書式ニ據リ申請スヘシ

第六條　左ニ掲クル者ハ塩元賣捌人ニ指定セラルルコトヲ得ス

一　塩專賣法第二十五條乃至第二十七條、第二十九條、第三十條ノ二乃至第三十一條ニ依リ處罰又ハ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經サル者

二　身代限處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ確定スルニ至ル迄ノ者

三　國稅滯納處分ヲ受ケ又ハ之ニ準シタル處分ヲ受ケ一箇年ヲ經サル者

四　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

五　第二十一條又ハ第二十一條ノ二ニ依リ塩賣捌人ノ指定ヲ取リ消サレ二箇年ヲ經サル者

前項第一號又ハ第五號ニ該當スル者ハ塩小賣人ニ指定セラルルコトヲ得ス

法人ノ場合ニ於テハ第一項各號ノ事實ノ有無ハ法人、法人ノ業務ヲ執行スル者又ハ法人ヲ代表スル者ニ付之ヲ定ム

第七條　塩元賣捌人ト塩小賣人トハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス又其ノ營業所ヲ同シクスルコトヲ得ス

第八條　塩賣捌人ノ營業所ハ一人一箇所トス但シ專賣局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ二箇所以上ノ營業所ノ設置ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條　塩賣捌人ハ專賣局長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ營業所ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條　塩ノ收納地、輸入地又ハ移入地以外ニ塩ヲ回送シテ之ヲ賣渡ストキハ回送ニ關スル費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトアルヘシ

△第十條ノ二　塩ヲ外國ニ輸出シタル者專賣塩特別定價賣渡及交付金下